

第2章 遠野市の文化的資産



- 第1節 文化的資産把握
- 第2節 指定文化財の概要
- 第3節 文化的資産の概要
- 第4節 遠野遺産
- 第5節 遠野市の歴史文化の特徴

第2章 遠野市の文化的資産

第1節 文化的資産把握

遠野市歴史文化基本構想をまとめるにあたり、未指定の文化財を含めた遠野市の文化的資産を総合的に把握する必要があります。本来であれば、すべての分野について悉皆調査を行う必要がありますが、それには膨大な時間を要するため、将来、計画的に補完していくこととしました。本構想においては、調査資料の乏しい市街地の歴史的建造物の調査を行うとともに、現在までに蓄積されたさまざまな既存の調査資料を整理・再確認し、指定文化財、未指定文化財として区分してまとめることによって現時点における文化的資産の把握とし、遠野市の歴史文化の特徴を整理しました。文化的資産の把握として整理、反映した既存の未指定調査記録などは以下の通りです。

なお、博物館収蔵資料については個別の記述を省略しました。

(1) 文化財調査記録等

ア 個別の調査資料記録

これまでに遠野市が行ってきた未指定の文化的資産に関する調査資料(調査表カードファイル)について下記一覧表に整理しました。調査資料の種類は信仰、産業、交通、生活、埋蔵文化財など、多岐にわたります。

一覧表の資料点数では、石碑が 2,523 点と突出して多くなっています。この数値は『遠野物語』序文の中で「路傍に石塔の多きこと諸国其比を知らず」と書かれた遠野の特徴を裏付ける数値といえます。石碑調査は、現在も悉皆調査を継続していることから今後も増加すると考えられます。次に多い神仏像は 714 体ですが、信仰関連の遠野七観音や供養絵額、オシラサマ、信仰、山伏資料の数値を合計すると 1,425 点となり、信仰が遠野の文化において高い比率を占めている状況が覗われます。

埋蔵文化財の件数は 507 ヲ所となっていますが、発掘調査が行われた遺跡は遠野市と岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査した遺跡数を併せても 39 ヲ所程で、総数の 1 割にも満たない状況にあります。

これらの調査資料を基に、主要な資料について項目ごとにまとめ、未指定の文化的資産として整理しました。

表 2-1 調査資料一覧

オシラサマ	65 点	染織	60 点
衣	98 点	畜産	82 点
遠野七観音	152 点	通過儀礼・年中行事	17 点
供養絵額	220 点	伝承園・所蔵資料	89 点

古書画類	57 点	農耕	163 点
交易・社会生活	70 点	民俗芸能 競技・娯楽・遊戯	68 点
交通・運輸・通信	64 点	民俗知識	58 点
山樵(きこり)	48 点	養蚕・狩猟・漁撈	98 点
山状資料	229 点	資料調査票	80 点
住	162 点	埋蔵文化財	507 カ所
諸職・手細工	59 点	信仰	44 点
食	259 点	神仏像	714 体
神楽面	229 点	歴史	66 点
石碑	2,523 点	建造物	117 棟

イ 文化財調査報告書の記録

市の文化財保護審議会委員および外部有識者によって行われた有形文化財や天然記念物に関する調査成果を、文化財報告書として第1集から第14集までまとめているほか、開発に伴い消滅する遺跡の記録保存を目的として実施した、発掘調査の成果を埋蔵文化財調査報告書としてまとめています。これらの調査報告書の記録を文化的資産として再確認し、確認事項を基に未指定文化財の把握内容として記載事項の項目に反映しました。項目に反映した報告書名については、「第3章、第1節、遠野市における文化財の保存と活用の変遷」に掲載しています。

ウ 博物館企画展開催に伴う調査記録

博物館の企画展を開催するため、テーマに沿った個別調査の資料が図録としてまとめられています。内容の詳細は図録に譲りますが、この図録資料についても未指定文化財の把握の一環として再確認し、確認事項を基に未指定文化財の状況として記載した項目に反映しました。項目に反映した図録は、文化財調査報告書と同様に、「第3章、第1節、遠野市における文化財の保存と活用の変遷」に掲載しています。

(2) 遠野遺産調査資料

遠野遺産は指定文化財を含んでいますが、市民の価値観を重視して認定された文化的資産で、その多くは遠野市の魅力といえる未指定文化財です。認定に際し作成した調査資料に基づき、項目を設けて内容を整理しました。参考として資料編にこれまで認定されている遠野遺産の一覧表を掲載しています。

(3) その他資料

その他の資料として、旧町村単位に刊行された村史、町史、郷土史から文化財に関する情報を再確認し、文化的資産の内容に反映しました。

第2節 指定文化財の概要

旧遠野市では昭和31年に文化財保護条例を制定、昭和52年に改訂(遠野市条例第5号)しました。宮守村においても同様に、昭和52年に宮守村文化財保護条例(宮守村条例第12号)を制定し、それぞれの調査に基づき貴重な文化財を指定、保護してきました。

平成17年の合併により誕生した新遠野市において、二つの文化財保護条例が整理統合され現在の遠野市文化財保護条例(遠野市条例第93号)に引き継がれました。遠野市ではこの条例に基づき、遠野市文化財保護審議会(定員15名以内、任期2年)を組織し、指定による文化財の保護を継続、推進してきました。これにより、これまで指定された遠野市内に所在する指定文化財などは157件に上ります。以下にその概要を項目毎に整理しました。

(1) 国指定、選定及び登録文化財

ア 特別天然記念物

特別天然記念物に指定されている早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落は、北上高地の最高峰である早池峰山を中心として、ハヤチネウスユキソウなどの固有種を含む貴重な植物群落が存在し高く評価されています。

イ 国指定重要文化財建造物

国指定重要文化財は、いずれも南部曲り家で、遠野の人々が馬と共に暮らしてきた生活の中から生まれた代表的建造物です。重要文化財菊池家住宅は、曲り家の発生過程を覗わせる建造物、重要文化財千葉家住宅は江戸時代末期に建てられた大型の曲り家で、石垣の上に建てられた勇壮な屋敷構えが残されており、当時の大農家の様子をよく表しているとして、それぞれ指定を受けました。

ウ 国指定史跡

国指定史跡綾織新田遺跡は、縄文時代前期の大型住居を主体とした集落跡で、当時の生活や社会を考察するうえで欠くことができない遺跡として指定されています。

エ 国選定重要文化的景観

国選定重要文化的景観に選定されている遠野 荒川高原牧場 土淵山口集落は、『遠野物語』に関わる文化的景観として2つの地域が選定されています。荒川高原牧場は天然芝を活用し、古くから夏山冬里方式により放牧が行われており、『遠野物語』のなかで語られる馬との関りが深いことから選定されました。追加選定を受けた土淵山口集落は、『遠野物語』の話者、佐々木喜善の生家があり、物語の誕生に深く関わった集落として選定されたものです。



写真 2-1 国選定重要文化的景観土淵山口集落

写真 2-2 国指定重要文化財千葉家住宅

オ 国登録有形文化財

建物を活用しながら緩やかな規制で保護していく国登録有形文化財には、平成 30 年 4 月現在 12 棟が登録されています。内訳は、直家 1 棟、曲り家 5 棟(遠野ふるさと村)、町家及び付属建物 5 棟(仙台屋)、旧遠野寶物館 1 棟(現博物館収蔵庫)となっています。

(2) 岩手県指定文化財

岩手県指定文化財は 17 件で、その内訳は建造物 2 棟(山谷観音堂、鞍迫観音堂)。美術工芸品 7 件(釈迦涅槃図、十三仏、太刀、算額など)。無形民俗文化財 5 件(青笹しし踊り、早池峰しし踊り、駒木鹿子踊り、長野獅子踊り、板澤しし踊り)。天然記念物 3 件(樹木)となっています。

ア 県指定有形文化財建造物

建造物 2 棟はいずれも江戸時代の仏堂建築として評価されたもので、遠野七観音の札所となっており、建造物以外にも県指定、市指定の有形文化財を所有しています。

イ 県指定有形文化財美術工芸品

美術工芸品は、太刀や鏢のほか、ほぼ完全な形で残されている室町時代の山伏の笈。全国的に見ても例が少ない鎌倉時代の仏画 2 点。問題例が少ない代数問題を記した江戸時代中期の算額があります。古くからの信仰を伝える資料や、学問に関心が高かった地域の特性を示す資料です。

ウ 県指定無形民俗文化財

無形民俗文化財は、いずれも遠野の代表的民俗芸能となっている「しし踊り」で、踊りの起源や特徴の違いなどから 5 つの団体が指定され、活発な保存伝承活動を行って

ます。ただし、早池峰しし踊りは、東禅寺しし踊り、上柳しし踊り、張山しし踊りの3団体が一団体として指定を受けており、遠野のしし踊り14団体の内、半数となる7団体が県指定となっています。また、青笹しし踊りは昭和53年に記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財として国の選択を受けています。

エ 県指定天然記念物

天然記念物は、遠野市の樹木で神社の御神木となっている夫婦イチイ。ソメイヨシノとシダレヒガンを掛け合わせ、樹齢が短いといわれるモリオカシダレ。暖かい地域に生育するといわれるイブキの古木が指定されています。



写真2-3 山谷観音堂



写真2-4 金銅装双塔文 笈

(3) 遠野市指定文化財

市指定文化財は122件で、その内訳と概要は以下の通りです。

ア 建造物-12件

内訳：早池峯神社本殿・拝殿・神門・中門、瑞応院本堂、平倉観音堂、登坂家住宅、佐々木家住宅など。

概要：建造物は、古い伝説を有する早池峯神社に関する建造物、遠野南部氏ゆかりの寺院、遠野七観音札所となっている観音堂などの信仰関連の建造物のほか、遠野唯一の武家住宅である登坂家住宅、『遠野物語』の話者となった佐々木喜善の生家、店蔵形式を受け継いでいる小林荒物雑貨店、遠野の町家形式を残す旧佐々木精米所店舗兼住宅、優れた意匠を残す南部曲り家などがあります。

イ 美術工芸品-36件

内訳：絵画-光明本・仏画3幅、鞍迫観音堂絵馬の3件、彫刻-仏像など16件、工芸品-鰐口・掛仏・経筒・梵鐘など10件、書籍-日蓮真筆曼荼羅1件、典籍-明治時代の教科書・大般若經典2件、歴史資料-南部利直黒印状・『遠野物語』原稿及び関

連資料・『遠野物語』初版本第1号3件、考古資料－金取遺跡出土品1件。

概要：美術工芸品は、遠野の篤く多様な信仰を裏付ける信仰関係の資料が多く指定されています。その他にも、南部家ゆかりの資料や『遠野物語』に関する資料などがあり、遠野の文化の多様性が集約されているといえます。

ウ 絵画

絵画は、浄土真宗の初期布教形態を示す光明本や、遠野市内最古の仏画「参りの仏」のほか、馬産振興の証でその変遷を窺える江戸時代の絵馬があります。

エ 彫刻

彫刻としては、鎌倉時代の特徴を留めた常楽寺の阿弥陀如来像。曹洞宗の宗祖道元禅師像として常堅寺に伝えられる室町時代の僧形像。鎌倉時代中世彫刻の秀作として評価される光明寺の阿弥陀如来立像。華嚴院と称する修験者館林家に伝わり、優れた刀法技術が窺われ名工の作と評価される厨子入り大日如来坐像と不動明王立像。当地方随一の大きさを誇り、明治時代の廃仏毀釈運動により早池峰山妙泉寺から土淵常堅寺に譲渡された仁王尊像2体。火災により損傷しているものの、平安中期の古仏と推定される鞍迫十一面観音立像。遠野三山の女神伝説が残る伊豆権現(伊豆神社)のご神体獅子頭。江戸時代の豪商、両川覚兵衛が愛宕神社に寄進し、後に常福寺に移された遠野最大の铸造仏、愛宕延命菩薩像。二重の厨子に納められ、胎内仏を持つ常福寺の阿弥陀如来立像。平安時代中期の作と推定される善明寺本尊、阿弥陀如来坐像。遠野物語拾遺に仏像が病で苦しんでいる家人に替わって田植えをしたとの逸話が残る会下家の十王仏。平安時代後期の本格的定朝様式を伝える数少ない仏像として評価される善明寺の阿弥陀如来坐像があります。

オ 工芸品

工芸品は、山谷観音西側の経塚から発掘された天正12年(1584)銘がある銅板金製、鍍金の経筒のほか、宝永7年(1710)の銘を持ち、第2次世界大戦の金属回収運動で一旦は抛出されたものの、由緒あるものとして後に返却された逸話がある大慈寺の梵鐘。神仏習合を形にしたものと言われ、鎌倉から室町時代に作られた掛仏。山谷観音の歴史が刻まれた鰐口や八戸直義公が奉納した鰐口。遠野南部家伝来の鎧具足。早池峯神社に奉納され鎌倉時代末の作と推定される太刀。人材育成のため創立された、郷校信成堂で使用した書籍の版木があります。

カ 書籍

書籍は、代々遠野南部家で保管され、明治に知恩寺の所有となった日蓮真筆曼荼羅で、建治年間(1215～1278)頃のものとして推定されています。

キ 典籍

典籍は、教授用を含めた全教科が残り、岩手県の実情に即し編集された明治時代の教科書 123 種 351 冊で、遠野出身者田口小作が著した『単語図解』、『色図』が含まれています。ほか、大槌の禅僧、菊池祖晴が 10 年の歳月をかけて書写、金崎總八が 574 巻から引き継いで書写し、上郷町曹源寺が所蔵する大般若経典 590 巻があります。

ク 歴史資料

歴史資料としては、遠野最古の古文書で、慶長 12 年(1607)に阿曾沼氏から与えられていた寺領と同様の石高を、南部利直が改めて妙泉寺に与え置くことを記した南部利直黒印状のほか、民俗学誕生の礎となった『遠野物語』原稿および関連資料、『遠野物語』初版本第 1 号です。『遠野物語』に関しては、他にも書簡や文献など未指定の資料も多くあります。

ケ 考古資料

考古資料は、金取遺跡の第 1 次調査までに出土した後期旧石器時代を遡る時代の大型打製石斧を含む石器類です。

コ 有形民俗文化財

内訳：早池峰駒形の版木、蚕祭文、オシラサマ、猿曳駒版木、鑄掛用具、十月仏。

概要：有形民俗文化財は、現在も使用できるほど保存状態の良い鑄掛道具一式、お守り札を発行していた早池峰駒形の版木、民間信仰や口誦文芸などに貴重な素材を提供する蚕祭文、養蚕などの神様とした民間信仰の対象で、『遠野物語』でも登場し有名となった遠野最古(文禄 3 年(1594))のオシラサマ、早池峰駒形の版木と一対を為す猿曳駒版木、十月仏があります。

サ 無形民俗文化財

内訳：大出早池峰神楽、鱒沢神楽、しし踊り、氷口御祝など、民俗芸能 11 件、民俗行事－小友町裸参り、神事－遠野南部流鑄馬。

概要：無形民俗文化財は、神人系神楽として早池峯神社に伝わる大出早池峰神楽と、その直弟子に当たる鱒沢神楽。遠野地方の主流である幕踊り系しし踊りとして、綾織しし踊り、鷹鳥屋獅子踊り、山谷獅子踊り、土淵しし踊り、細越獅子踊り、佐比内しし踊り。遠野市唯一の太鼓系しし踊りである、行山流鹿踊。厳寒期 2 月に民俗行事として小友町で行われている裸参り。毎年、遠野八幡宮馬場で行われ、遠野南部氏が奉納した事に始まったとされる神事、遠野南部流鑄馬。男衆が謡曲、女衆が萬鶴亀節という歌詞も旋律も異なる二つの唄を同時に歌い始め、同時に終わる特異な形態の祝い唄、氷口御祝があります。

シ 史跡

内訳：佐比内鉄鉾山跡、新谷番所跡、東禅寺跡、遠野八幡宮馬場、一里塚、七里塚、金取遺跡、久子翠峰の墓、下同心丁柵形、松崎観音の石碑、亘田峠一里塚。

概要：史跡は、遠野地方の漢文学に著しい功績を残した久子翠峰の墓。伊達藩との藩境の地に境界警護のため、設置された番所の中で唯一残存する新谷番所跡。天文6年(1537)の銘がある松崎観音の石碑。防衛のため城下町の入口に設けられた下同心町の柵形。保存状態が良い一里塚として指定された、亘田峠の一里塚、宮守の一里塚と七里塚。遠野南部流鎗馬の神事が行われる遠野郷八幡宮馬場。近代製鉄の父と言われる、大島高任の弟子清岡澄らにより、世界遺産となった「橋野高炉跡」とほぼ同時期に建設された佐比内鉄鉾山跡。創建年代には諸説あり定まっていないが、中世の一大伽藍配置を止めている東禅寺跡。後期旧石器時代を遡る時代の遺物が出土した金取遺跡があります。

ス 名勝

内訳：登坂氏庭園。

概要：名勝は遠野市に残る唯一の武家住宅登坂家住宅に付随する蓬莱山形式の鶴亀の庭園で、文化・文政(1804～1830)頃に作庭されたと言われる登坂氏庭園です。

セ 天然記念物－44件

内訳：田屋の大杉、大洞のヤマザクラ、千本カツラ、サワグルミ、サワラなど。

概要：天然記念物は指定物件が44件と多く、そのほとんどが樹木です。これらは樹齢の長さや大きさにより指定されている樹木、古木で逸話が残されている樹木、神社の御神木となっている樹木、お寺や地域のシンボルとなっている樹木などで、中には農作業の目安となったサクラや飢饉に備えて植えられたと考えられる樹木もあります。逸話が残されている主な樹木としては以下のような樹木があります。

- ・田屋の大杉－木を切ろうとしたら血が出た。幹の中に地蔵が埋まっている。
- ・ナラガシワ－阿曾沼氏一族が秋田から苗木を取り寄せ植えたもの。
- ・長泉寺カヤの木－江戸時代の初め、鱒沢忠右衛門広恒の子がこの木の下で処刑された。
- ・御止の藤－白い藤は大変珍しいとお殿様が足を止め、動かしてはならないといった。
- ・千本カツラ－大蛇が出るといわれ守られてきた。
- ・爪喰稲荷境内の杉－八戸から遠野に入部した南部氏に随行した沖館氏の先祖が、氏神として諏訪稲荷神社を勧請した記念に植樹された。
- ・シダレザクラ－喜清院の和尚が、南部家から拝領したお堂の前に手植えた。
- ・大日山のサクラ－南部氏が湯殿山の分霊を勧請し、大日堂を建立した際に記念として植樹された。

- ・エドヒガンザクラ－高館の館主、面懸左衛門尉が手植えした。

樹木以外の指定された天然記念物としては、弁慶が上石を乗せたとの伝説があり、門の様に巨石が組み合わされた続石。大洞二股湿原コバイケイソウ等の植物群落及びモリアオガエル繁殖地。大森の大谷地。仙人峠ニホンウサギコウモリ繁殖洞穴群があります。

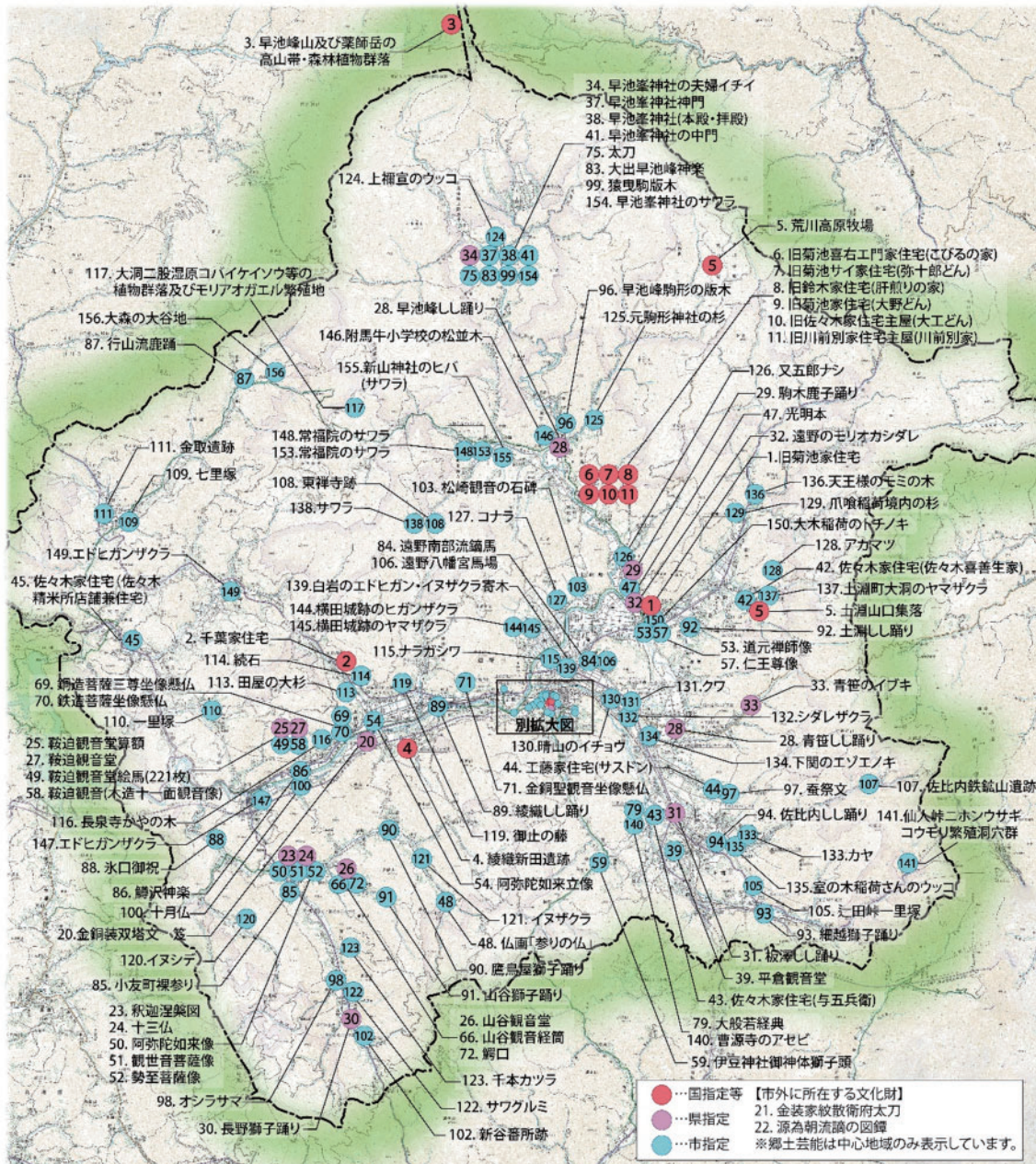


図2-1 指定文化財の分布状況

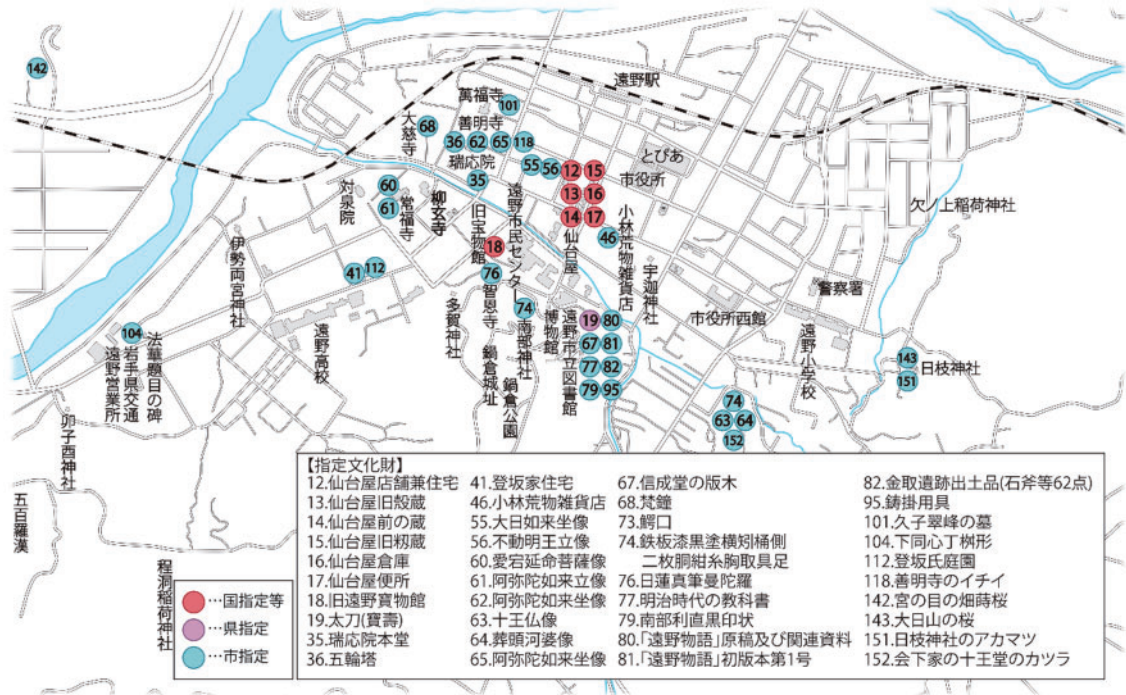


図 2-2 指定文化財の分布状況 市街地



写真 2-5 鞍迫観音菩薩立像



写真 2-6 早池峯神社黒門



写真 2-7 大洞のヤマザクラ

表2-2 遠野市の指定文化財一覧

(平成30年4月1日現在)

No.	指定種別	文化財種別	名称	所在地	指定年月日
1	国指定	建造物	旧菊池家住宅	土淵町	S51年2月3日
2	国指定	建造物	千葉家住宅	綾織町	H19年12月4日
3	国指定	特別天然記念物	早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落	遠野、花巻、宮古	S32年6月19日
4	国指定	史跡	綾織新田遺跡	綾織町	H14年12月19日
5	国選定	文化的景観	遠野 荒川高原牧場 土淵山口集落	附馬牛町 土淵町	H20年3月28日 H25年3月追加
6	国登録	建造物	旧菊池喜右エ門家住宅（こびるの家）	附馬牛町	H18年3月2日
7	国登録	建造物	旧菊池サイ家住宅（弥十郎どん）	附馬牛町	H18年3月2日
8	国登録	建造物	旧鈴木家住宅（肝煎りの家）	附馬牛町	H18年10月18日
9	国登録	建造物	旧菊池家住宅（大野どん）	附馬牛町	H18年10月18日
10	国登録	建造物	旧佐々木家住宅主屋（大工どん）	附馬牛町	H20年4月18日
11	国登録	建造物	旧川前家住宅主屋（川前別家）	附馬牛町	H20年4月18日
12	国登録	建造物	仙台屋店舗兼主屋	中央通り	H20年7月8日
13	国登録	建造物	仙台屋店旧穀蔵	中央通り	H20年7月8日
14	国登録	建造物	仙台屋前の蔵	中央通り	H20年7月8日
15	国登録	建造物	仙台屋旧穀蔵	中央通り	H20年7月8日
16	国登録	建造物	仙台屋倉庫	中央通り	H20年7月8日
17	国登録	建造物	仙台屋便所	中央通り	H20年7月8日
18	国登録	建造物	旧遠野寶物館（遠野市立博物館新町収蔵庫）	新町	H29年5月2日
19	県指定	工芸品	太刀（銘 永和二年八月 日 寶壽）	東館町	S54年8月17日
20	県指定	工芸品	金銅装双塔文 笈	綾織町	S58年8月5日
21	県指定	工芸品	金装家紋散衛府太刀		S55年10月3日
22	県指定	工芸品	源為朝流謫の図罫		S55年10月3日
23	県指定	絵画	釈迦涅槃図	小友町	H3年8月27日
24	県指定	絵画	十三仏	小友町	H3年8月27日
25	県指定	歴史資料	鞍迫観音堂算額	宮守町	H29年4月7日
26	県指定	建造物	山谷観音堂	小友町	H6年9月16日
27	県指定	建造物	鞍迫観音堂	宮守町	H6年9月16日
28	県指定	無形民俗文化財	青笹しし踊り 早池峰しし踊り	青笹町 附馬牛町	S49年2月15日
29	県指定	無形民俗文化財	駒木鹿子踊り	松崎町	H26年4月22日
30	県指定	無形民俗文化財	長野獅子踊り	小友町	H26年4月22日
31	県指定	無形民俗文化財	板澤しし踊り	上郷町	H26年4月22日
32	県指定	天然記念物	遠野のモリオカシダレ	松崎町	S52年4月26日
33	県指定	天然記念物	青笹のイブキ	青笹町	S52年4月26日
34	県指定	天然記念物	早池峯神社の夫婦イチイ	附馬牛町	S61年5月9日

No.	指定種別	文化財種別	名称	所在地	指定年月日
35	市指定	建造物	瑞応院本堂	大工町	S34年3月10日
36	市指定	建造物	五輪塔	大工町	S34年3月10日
37	市指定	建造物	早池峯神社神門	附馬牛町	S47年8月22日
38	市指定	建造物	早池峯神社(本殿・拝殿)	附馬牛町	S58年5月20日
39	市指定	建造物	平倉観音堂	上郷町	H2年8月10日
40	市指定	建造物	早池峯神社の中門	附馬牛町	H13年6月29日
41	市指定	建造物	登坂家住宅	六日町	H24年4月27日
42	市指定	建造物	佐々木家住宅(佐々木喜善生家)	土淵町	H24年4月27日
43	市指定	建造物	佐々木家住宅(与五兵衛)	上郷町	H24年4月27日
44	市指定	建造物	工藤家住宅(サスドン)	青笹町	H24年4月27日
45	市指定	建造物	佐々木家住宅 (佐々木精米所店舗兼住宅)	宮守町	H24年4月27日
46	市指定	建造物	小林荒物雑貨店	中央通り	H24年4月27日
47	市指定	絵画	光明本	松崎町	S32年7月16日
48	市指定	絵画	仏画「参りの仏」	小友町	S36年11月25日
49	市指定	絵画	鞍迫観音堂絵馬(221枚)	宮守町	H9年9月10日
50	市指定	彫刻	阿弥陀如来像	小友町	S32年7月16日
51	市指定	彫刻	観世音菩薩像	小友町	S32年7月16日
52	市指定	彫刻	勢至菩薩像	小友町	S32年7月16日
53	市指定	彫刻	道元禅師像	土淵町	S34年3月10日
54	市指定	彫刻	阿弥陀如来立像	綾織町	S34年3月10日
55	市指定	彫刻	大日如来坐像	中央通り	S34年3月10日
56	市指定	彫刻	不動明王立像	中央通り	S34年3月10日
57	市指定	彫刻	仁王尊像	土淵町	S36年11月25日
58	市指定	彫刻	鞍迫観音(木造十一面観音像)	宮守町	S52年12月20日
59	市指定	彫刻	伊豆神社御神体獅子頭	上郷町	S56年2月23日
60	市指定	彫刻	愛宕延命菩薩像	新町	S56年3月25日
61	市指定	彫刻	阿弥陀如来立像	新町	S58年5月20日
62	市指定	彫刻	阿弥陀如来坐像	大工町	S58年5月20日
63	市指定	彫刻	十王仏像	遠野町	S59年4月20日
64	市指定	彫刻	葬頭河婆像	遠野町	S59年4月20日
65	市指定	彫刻	阿弥陀如来坐像	大工町	H2年8月10日
66	市指定	工芸品	山谷観音経筒	小友町	S32年7月16日
67	市指定	工芸品	信成堂の版木	東館町	S32年7月16日
68	市指定	工芸品	梵鍾	大工町	S60年6月27日
69	市指定	工芸品	銅造菩薩三尊坐像懸仏	綾織町	H1年5月24日
70	市指定	工芸品	鉄造菩薩坐像懸仏	綾織町	H1年5月24日
71	市指定	工芸品	金銅聖観音坐像懸仏	綾織町	H1年5月24日

第2章 遠野市の文化的資産

No.	指定種別	文化財種別	名称	所在地	指定年月日
72	市指定	工芸品	鱒口	小友町	H2年8月10日
73	市指定	工芸品	鱒口	遠野町	H2年8月10日
74	市指定	工芸品	鉄板黒漆塗横柄桶側二枚胴紺糸胸取具足	東館町	H3年8月10日
75	市指定	工芸品	太刀	附馬牛町	H3年8月10日
76	市指定	書跡	日蓮真筆曼陀羅	新町	S34年3月10日
77	市指定	典籍	明治時代の教科書	東館町	S39年12月18日
78	市指定	典籍	大般若經典	上郷町	S63年6月23日
79	市指定	歴史資料	南部利直黒印状	東館町	S59年6月8日
80	市指定	歴史資料	『遠野物語』原稿及び関連資料	東館町	H21年5月27日
81	市指定	歴史資料	『遠野物語』初版本第1号	東館町	H21年5月27日
82	市指定	考古資料	金取遺跡出土品(石斧等62点)	宮守町	H14年8月1日
83	市指定	無形民俗文化財	大出早池峰神楽	附馬牛町	S51年5月20日
84	市指定	無形民俗文化財	遠野南部流籠馬	東館町	S54年2月20日
85	市指定	無形民俗文化財	小友町裸参り	小友町	S59年4月20日
86	市指定	無形民俗文化財	鱒沢神楽	宮守町	H6年3月31日
87	市指定	無形民俗文化財	行山流鹿踊	宮守町	H8年12月2日
88	市指定	無形民俗文化財	氷口御祝	小友町	H17年11月30日
89	市指定	無形民俗文化財	綾織しし踊り	綾織町	H30年3月23日
90	市指定	無形民俗文化財	鷹鳥屋獅子踊り	小友町	H30年3月23日
91	市指定	無形民俗文化財	山谷獅子踊り	小友町	H30年3月23日
92	市指定	無形民俗文化財	土淵しし踊り	土淵町	H30年3月23日
93	市指定	無形民俗文化財	細越獅子踊り	上郷町	H30年3月23日
94	市指定	無形民俗文化財	佐比内しし踊り	上郷町	H30年3月23日
95	市指定	有形民俗文化財	鑄掛用具	東館町	S51年5月20日
96	市指定	有形民俗文化財	早池峰駒形の版木	附馬牛町	S36年11月25日
97	市指定	有形民俗文化財	蚕祭文	青笹町	S51年5月20日
98	市指定	有形民俗文化財	オシラサマ	小友町	H3年8月10日
99	市指定	有形民俗文化財	猿曳駒版木	附馬牛町	H5年5月21日
100	市指定	有形民俗文化財	十月仏	宮守町	H23年7月29日
101	市指定	史跡	久子翠峰の墓	大工町	S34年3月10日
102	市指定	史跡	新谷番所跡	小友町	S34年3月10日
103	市指定	史跡	松崎観音の石碑	松崎町	S36年11月25日
104	市指定	史跡	下同心丁櫓形	下組町	S38年4月26日
105	市指定	史跡	辻田峠一里塚	上郷町	S38年4月26日
106	市指定	史跡	遠野郷八幡宮馬場	松崎町	S56年2月23日
107	市指定	史跡	佐比内鉄鉾山遺跡	上郷町	S58年5月20日
108	市指定	史跡	東禅寺跡	附馬牛町	H3年8月10日
109	市指定	史跡	七里塚	宮守町	H7年3月10日

No.	指定種別	文化財種別	名称	所在地	指定年月日
110	市指定	史跡	一里塚	宮守町	H7年3月10日
111	市指定	史跡	金取遺跡	宮守町	H16年6月1日
112	市指定	名勝	登坂氏庭園	六日町	H24年4月27日
113	市指定	天然記念物	田屋の大杉	綾織町	S32年7月16日
114	市指定	天然記念物	続石	綾織町	S34年3月10日
115	市指定	天然記念物	ナラガシワ	松崎町	S48年12月25日
116	市指定	天然記念物	長泉寺かやの木	宮守町	S52年12月20日
117	市指定	天然記念物	大洞二股湿原コバイケイソウ等の植物群落・モリアオガエル繁殖地	附馬牛町	S56年3月25日
118	市指定	天然記念物	善明寺のイチイ	大工町	S58年5月1日
119	市指定	天然記念物	御止の藤	綾織町	S58年5月1日
120	市指定	天然記念物	イヌシデ	小友町	S58年5月1日
121	市指定	天然記念物	イヌザクラ	小友町	S58年5月1日
122	市指定	天然記念物	サワグルミ	小友町	S58年5月1日
123	市指定	天然記念物	千本カツラ	小友町	S58年5月1日
124	市指定	天然記念物	上禰宣のウッコ	附馬牛町	S58年5月1日
125	市指定	天然記念物	元駒形神社の杉	附馬牛町	S58年5月1日
126	市指定	天然記念物	又五郎ナシ	松崎町	S58年5月1日
127	市指定	天然記念物	コナラ	松崎町	S58年5月1日
128	市指定	天然記念物	アカマツ	土淵町	S58年5月1日
129	市指定	天然記念物	爪喰稲荷境内の杉	土淵町	S58年5月1日
130	市指定	天然記念物	晴山のイチョウ	青笹町	S58年5月1日
131	市指定	天然記念物	クワ	青笹町	S58年5月1日
132	市指定	天然記念物	シダレザクラ	青笹町	S58年5月1日
133	市指定	天然記念物	カヤ	上郷町	S58年5月1日
134	市指定	天然記念物	下関のエゾエノキ	青笹町	S59年4月20日
135	市指定	天然記念物	室の木稻荷さんのウッコ	上郷町	S59年4月20日
136	市指定	天然記念物	天王様のモミの木	土淵町	S59年6月8日
137	市指定	天然記念物	土淵町大洞のヤマザクラ	土淵町	S59年6月8日
138	市指定	天然記念物	サワラ	附馬牛町	S61年7月28日
139	市指定	天然記念物	白岩のエドヒガン・イヌザクラ寄木	松崎町	S62年5月21日
140	市指定	天然記念物	曹源寺のアセビ	上郷町	S62年5月21日
141	市指定	天然記念物	仙人峠ニホンウサギコウモリ繁殖洞穴群	上郷町	S63年2月26日
142	市指定	天然記念物	宮の目の畑蒔桜	綾織町	H2年8月10日
143	市指定	天然記念物	大日山の桜	遠野町	H9年7月25日
144	市指定	天然記念物	横田城跡のヒガンザクラ	松崎町	H9年7月25日
145	市指定	天然記念物	横田城跡のヤマザクラ	松崎町	H9年7月25日
146	市指定	天然記念物	附馬牛小学校の松並木	附馬牛町	H9年7月25日

No.	指定種別	文化財種別	名称	所在地	指定年月日
147	市指定	天然記念物	エドヒガンザクラ	宮守町	H10年12月22日
148	市指定	天然記念物	常福院のサワラ	附馬牛町	H11年11月26日
149	市指定	天然記念物	エドヒガンザクラ	宮守町	H13年3月30日
150	市指定	天然記念物	大木稲荷のトチノキ	土淵町	H13年6月29日
151	市指定	天然記念物	日枝神社のアカマツ	遠野町	H15年8月1日
152	市指定	天然記念物	会下家の十王堂のカツラ	遠野町	H15年8月1日
153	市指定	天然記念物	常福院のサワラ	附馬牛町	H17年3月18日
154	市指定	天然記念物	早池峯神社のサワラ	附馬牛町	H24年4月27日
155	市指定	天然記念物	新山神社のヒバ（サワラ）	附馬牛町	H24年4月27日
156	市指定	天然記念物	大森の大谷地	宮守町	H25年3月26日

第3節 文化的資産の概要

遠野市には信仰、民俗慣習、歴史など多種多様な文化的資産があります。第1節で確認、整理した調査資料に基づき、文化的資産の状況についてまとめます。調査資料は、いずれも遠野の文化的特徴を端的に示すものとして、これまで優先的に実施された調査資料、遠野市独自の文化財保護制度、遠野遺産認定制度により把握されたものです。

(1) 埋蔵文化財

遠野市内の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)は507ヵ所ありますが、山間部は分布調査を行っていないため、今後、遺跡数は増加すると思われます。分布的には、市街地となっている遠野町を除き、各町でそれぞれ50ヵ所程度の遺跡が確認されており、特に集中している地区は見られません。立地的には、山地裾野に形成された丘陵部に立地する遺跡が多く、古代以降の遺跡が平野部に点在するほか、要衝となる山地に城館跡が存在しています。その中で発掘調査を実施した遺跡は39か所となっています。本項では、主に市が調査した遺跡から検出された遺構と、出土した遺物について、報告書資料を基に、時代ごとの概要としてまとめました。

ア 縄文時代

《早期》

早期の遺跡は寒風遺跡、張山遺跡、大笹遺跡、沢遺跡などがあります。地床炉を伴う小型の楕円形竪穴住居、土坑が確認されており、遺物としては、擦切り磨製石斧、押型文土器、貝殻文土器が出土しています。資料が少なく、この時代の様相はあまりわかっていません。

《前期》

前期の遺跡としては、国指定史跡綾織新田遺跡があり、複数の地床炉を伴う大型の長

方形竪穴住居と、小型の竪穴、土坑、石列、道路跡などが確認されています。遺物としては、大木2式から大木4式に比定される深鉢形土器、出土例が少ない塊状耳飾り、断面三角形を呈した特殊磨石類、最古の事例と考えられる石剣類、生業との関りが深い石錘、石鏃、石槍、磨製石斧、土製品、黒曜石製の異形石器など、資料が乏しかった時代の遺物が多数出土し、当時の社会を知る貴重な調査資料となっています。



写真2-8 綾織新田遺跡
大型長方形竪穴住居



写真2-9 綾織新田遺跡
大木2式深鉢形土器



写真2-10 綾織新田遺跡
塊状耳飾り

《中期》

中期の遺跡としては張山遺跡、新田II遺跡があります。石囲炉や複式炉を伴う円形～楕円形の竪穴住居、食料を保存したと考えられる土坑、墓壙、亀甲形の建物跡など、集落規模が拡大したこの時期の様相を裏付ける多くの遺構が検出されています。遺物としては、大木8式から大木10式に比定される土器で、深鉢、台付き深鉢、器台、注口土器、鏝付き土器、樽型土器、ミニチュア土器などが出土し、墓壙の副葬品として出土したヒスイの大珠、磨製石斧、石鏃、磨り石、石匙などの石器類のほか、きのこや石斧の形をした土製品類が出土しています。出土した遺物の状況から、遠野はこの時代にはすでに物や情報が集積する地域だったと考えられます。集落の全体的様相を窺うことができる調査資料で、同時代の他地域集落と比較検討するための重要な資料を有しています。

《後期》

後期の遺跡としては張山遺跡、甲子遺跡、栃洞遺跡があります。石囲炉を伴う円形で小型の竪穴住居や長方形を基調とした竪穴住居、土坑、祈りに関連すると思われる配石遺構などが検出されています。遺物としては、門前式と呼ばれる土器、後期前葉の土器で、深鉢、注口土器、ミニチュア土器、土偶頭部、石斧、石鏃、磨り石などが出土しています。調査資料があまり多くないので、確かなことはいえませんが、集落規模が縮小され、写実的な土偶が作られるなど、この時代の傾向が窺われます。

《晩期》

晩期の遺跡としては析洞遺跡、平倉観音遺跡があります。地床炉を伴う円形の竪穴住居、お墓として転用されたと考えられる土坑などが検出されています。遺物としては、大洞式と呼ばれている土器で、深鉢、注口土器、香炉形土器、磨製石斧、石鏃、磨り石、石匙などの石器類が出土しています。単独集落として確認された資料がないこともあり、具体的様相については言及できません。

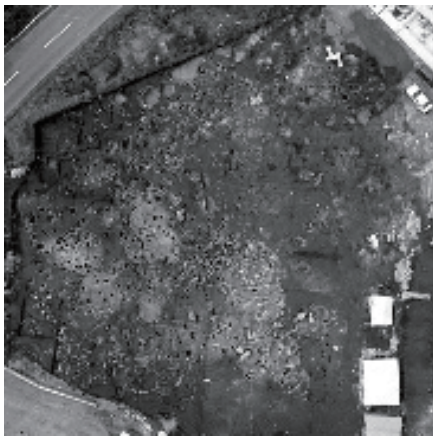


写真 2-11 張山遺跡空撮写真



写真 2-12 張山遺跡
ヒスイが出土した墓壙



写真 2-13 張山遺跡
ヒスイ(副葬品)

イ 弥生時代

弥生時代の遺跡としては平倉観音遺跡があります。調査個所が旧川道であったため、住居などの遺構は検出されていません。遺物として弥生時代前期に属する土器が出土していますが、量としてはあまり多くありません。遠野において人の営みが継続されていたことが窺われますが、詳細は今後の調査に期待するところです。

ウ 古墳時代

古墳時代に属する遺跡調査事例はなく、資料も確認されていません。前後の時代に遺跡が存在していることから、人の営みは継続されていたと推定されます。詳細は弥生時代と同様、今後の調査に期待するところです。

エ 古代

奈良時代の遺跡としては蓬田遺跡、高瀬Ⅰ遺跡、高瀬Ⅱ遺跡があります。北側にカマドを付設し隅丸方形を基調とした竪穴住居、末期古墳と呼ばれる小型円墳の痕跡などが検出されています。遺物としては、土師器と呼ばれ、ロクロを使わず製作した甕や壺、内面黒色処理した坏、蒸し器(甑)などの土器、鉄製の斧、蕨手刀、鉄鏃、糸を紡ぐときの道具(紡錘車)などが出土しています。調査から、川沿いの微高地に集落が形成され、集落に勢力を持った階級が発生し、古い時代から鉄器が使用されていたことが窺われ、

この時期に今に通じる集落の原点が形成されたと想像されます。

平安時代の遺跡としては高瀬Ⅰ遺跡、高瀬Ⅱ遺跡、本宿遺跡、大久保遺跡があります。主に東側にカマドを付設した方形基調の竪穴住居、掘立柱建物、集落の区画溝などが検出されています。遺物としては、土師器と呼ばれるもののほか、須恵器と呼ばれる硬質の土器も含まれ、ロクロを使って製作した甕や鉢、坏、墨で文字が書かれた墨書土器、鉄鈴などが出土しています。計画的に配置された遺構や、墨書土器に書かれた内容から、遠野はこの時期に律令制度のなかに組み込まれていったと推定されます。



写真2-14 高瀬Ⅰ遺跡から出土した墨書土器(「地子稻不得」)

オ 中世

中世の遺跡調査例は東禅寺跡があります。伽藍配置の様子を確認できる基壇や複数の礎石建物跡があり、総門や、山門、方丈、法堂、仏殿などに比定されています。詳細な調査が行われていないので、時期を推定する遺物は出土していませんが、若干の遺物が出土しています。この遺跡は、主要な歴史文献資料に残されていない寺院跡で、創建者や創建の背景などは不明ですが、遠野において仏教が深く浸透し、確たる位置を有していたことを証明しています。創建時期や背景の解明による歴史的位置付け如何によっては、歴史が修正される可能性を有しています。その他の資料として、140ヵ所の館跡の位置と略図、概要について報告書としてまとめられた中世城館に関する資料があります。検証が必要な館跡もありますが、ほとんどが阿曾沼氏の時代に属し、統治の状況を知るための基礎資料となっています。

カ 近世

近世の遺跡としては鍋倉城跡があります。阿曾沼時代に属する半地下式の建物、掘立柱建物があり、遠野南部氏の時代に属する遺構として、礎石立建物、石列、玄関跡の葺石、石組排水溝、土塁、柵列などが検出されています。遺物としては、中世阿曾沼氏の時代に属する16世紀代の中国産染付磁器の皿や碗、瀬戸美濃産の陶器天目茶碗、皿若干のほか、17世紀中頃から19世紀代で南部氏の時代に属するものが多数あります。

その内訳は、陶器が大堀相馬産、次いで在産、瀬戸美濃、肥前、京信楽、唐津の順となっており、磁器は肥前が大半を占め、中国産、瀬戸美濃が若干含まれています。器種としては皿や椀が主体的で、瓶類、播鉢、鍋類などもあります。大衆向けの器も若干含まれるものの、化粧道具や色絵碗、青磁染付碗蓋や碗、墨弾き大皿などの奢侈品や、セットで購入したと思われる中皿などが含まれており、上級武家の生活水準の高さを窺えます。その他、角釘、かすがい、鎌、和鋏、鉄鍋、武具、銭竿、煙管やかんざし、鉄砲玉、北宋銭、明銭、安南銭、寛永通宝、鉄銭、硯、碁石、砥石、羽口など、多種多様な遺物が出土しています。上記の資料は内容確認調査で得た鍋倉城の概要を知る資料であり、保存状態の良いことが確認されています。



写真 2-15 鍋倉城本丸跡空撮写真

キ 近代

近代の遺跡としては佐比内鉄鉦山遺跡があります。1 番高炉の基壇、フイゴ座、木池、フイゴ棚、水車場、湯口跡、水路跡が検出されています。遺物としては、高炉の部材として使用されていた耐火煉瓦、フイゴ板、チキリ鉄、羽口、石臼、鉄銭などが出土しています。大島高任によって築かれた釜石市橋野高炉跡の建設から数年後、弟子の清岡澄によって築かれた高炉跡で、近代製鉄の初期形態を良く留め、伝える資料です。



写真 2-16 佐比内鉄鉦山 1 番高炉跡

(2) 歴史的建造物

ア 建造物指定文化財の特徴

1) 指定文化財の特徴

前述してきたように、遠野市の指定文化財建造物は、下記の26棟です。文化財指定建造物の用途は、南部曲り家11棟、次いで社寺関係5棟、店舗併用住宅3棟、近代建築(旧遠野寶物館)1棟と、「南部曲り家」が遠野を象徴する歴史的建造物と言えます。

また、旧遠野寶物館を除いた指定文化財の建築年代は遠野に城下が遷り、海と山の交易で賑わった江戸時代中頃から明治期に掛けて建造されたものです。

建築技術は、主に伝統的木造建築技術・左官技術による木造建築と土壁の蔵ですが、関東大震災後に建てられた旧遠野寶物館は鉄筋コンクリート造です。

ほかの建造物関連指定文化財に、「国指定史跡 綾織新田遺跡」「国選定重要文化的景観 遠野荒川高原牧場土淵山口集落」「市指定文化財 建造物 五輪塔」があります。

表2-3 文化財指定建造物の用途

国指定	重要文化財	2棟	南部曲り家(付属屋3棟を含む) 2棟
	登録文化財	13棟	南部曲り家 6棟 店舗 1棟 及び付属屋5棟 寶物館1棟
県指定		2棟	観音堂 2棟
市指定		11棟	南部曲り家 2棟 直家 1棟 武士住宅 1棟 社 2棟 門 2棟 寺 1棟 店舗併用住宅 2棟

2) 遠野の建造物調査資料

旧石器時代から生活の痕跡(金取遺跡)が残る遠野は、近世には馬の荷役「駄賃づけ」が盛んとなり、馬と共生した内厩の南部曲り家の成立につながり、柳田国男『遠野物語』や石原憲治『日本農民建築』により、大正期から全国的に知られるようになりました。戦前には同潤会による生活改善を目指した住宅調査(郷土住宅誌)が行われています。

戦後になると、伊藤ていじ氏(工学院大学)による千葉家住宅(重文)調査を始めに、岩手県教育委員会による「岩手の民家」や文化庁による民家緊急調査「岩手の古民家」、遠野市教育委員会による「遠野の曲り家」など公的調査が進み、南部曲り家の分布地域と特徴が明らかにされてきました。

また、遠野市の建造物に関する特徴的な調査資料は、平成2年から10年に掛けて岩手県建築士会遠野支部がボランティアで行った町家や農家の調査報告書があります。

以上の調査により得られた資料は遠野遺産の原資料として、歴史文化基本構想に基づく歴史的建造物調査の基礎資料として活用しました。



写真2-17 山積みできる程多数の歴史的建物既存調査資料

3) 未指定文化財建造物の調査と課題

これまで行われてきた歴史的建造物調査は、主に南部曲り家や社寺関連でしたが、今回は「生活文化」の視点を加味して社会施設から付属屋まで多様な用途の建造物を対象に実施しました。

また、大同年間(806-810)から灌漑堰遺構(遠野市松崎町矢崎)が残るなど、近世から近代に掛けて灌漑や水路整備を積極的に行って、広大な農地を開拓してきた歴史があるため、ライフラインに関わる土木・農業遺産にも注目した調査を行いました。

さらに、これまでは南部曲り家の形態的空間的特徴を目的とした調査が主でしたが、今回は建築技術や遠野市内の地域性に関する空間および建築技術における遠野らしさの抽出も課題としました。

表2-4 未指定文化財建造物の調査内容

用途	神社・堂 寺院 社会施設 商業施設 住居 蔵 納屋 社会基盤 他
建築年代	江戸時代以前 江戸時代 明治時代 大正時代 昭和時代
屋敷構え	屋敷・門(出入口)・住居・付属屋(蔵・納屋 他)の配置の仕方
建築形式	建築の形 階数 屋根形式 他
建築構法	木造在来構法 土蔵 レンガ造 コンクリート造 鉄骨造 他
改修内容	改修部位 建材 当初形態の変更 他
意匠	装飾のある各部位 装飾の形態・形の特徴 他
その他	由緒や増改築に関わる契機など

イ 未指定文化財建造物の調査と概要

1) 調査方針

① 考え方と調査内容：文化財指定建造物の主な用途は、社寺と農家でしたが、歴史文

化基本構想に基づく今回の建造物調査は、社寺や民家主体から生活文化や社会生活に関わる歴史的建造物まで調査視点を広げた上で、建造物単体から屋敷形態・空間構成・建築構法・意匠まで調査内容を拡大しました。

- ② 調査課題：遠野市には多くの既存調査資料があるため、評価が高かった遺構の現状確認に加えて、歴史文化基本構想の考え方に基づいた調査により新たな歴史的建造物の発掘を課題としました。
- ③ 歴史的建造物の評価：以上の調査で発掘できた新たな歴史的建造物の文化財要件を加味した評価を行ない、今後の歴史文化を活かした街づくりに役立てることを目的のひとつとしました。

2) 調査対象の選定と調査内容

- ① 調査対象の選定：指定文化財及び既存調査を踏まえた具体的調査対象は、以下の基準に基づいて現地調査により選定しました。
 - 1. 調査資料において「Aランク」の評価を受けている建造物。
 - 2. 近現代まで含めた建築年代の建造物。
 - 3. 屋敷構えと屋敷の主要建造物の残存状態に優れた建造物。
 - 4. 歴史的建造物の特徴を活かした改造状況がわかる建造物。
 - 5. 伝統的建築技術を継承し、活かした建造物。
- ② 評価視点：調査した歴史的建造物の評価は、文化庁の重要文化財建造物の選定指針を参考に下記の5項目としました。
 - 1. 建築当初の形態や特徴を良く残している建造物。
 - 2. 遠野の伝統的建造物の特徴を継承している建造物。
 - 3. 空間構成に遠野の生活や生業による特徴を継承している建造物。
 - 4. 遠野の歴史的風土に根ざした建築技術を継承した建造物。
 - 5. 特徴的な意匠を持つ外観や内部デザインの建造物。

ウ 調査結果

1) 調査概要と調査結果の概要

調査は、平成29年8月31日から平成30年12月17日にかけて、平成17年の平成合併後の遠野市全域の補足調査も含めて11回に渡り、外観の目視調査とヒアリングを組み合わせた現地調査を行いました。調査は屋敷構えや付属屋及び社会生活とライフライン関係の建造物にも着目して行ったので、調査建造物は寺院調査を含めて約130屋敷240件となりました。文化財未指定歴史的建造物の実態調査結果は、用途に着目した下記の11分類に従ってまとめました。

表 2-5 建造物用途別分類

1.神社・堂	5.町屋	9.納屋
2.寺院	6.町屋蔵（町屋に付属する蔵）	10.屋敷神
3.社会施設	7.農家	11.その他（ライフライン関連建造物など）
4.商業施設	8.農家蔵（農家に付属する蔵）	

① 神社・堂

岩手県指定文化財に2つの観音堂が指定されていますが、その他にも特徴のある神社や観音堂などが多数あります。例えば、「正一位鑄物神社の本殿」は小規模ですが、向拝回りの虹梁や軒廻りの出三斗に墓股や軒支輪、台輪の組み方と細工に優れたものがあります。達曽部八幡宮の拝殿も同様の構法と組物が施されています。

宮守観音堂は小規模な3間×3間の簡素な入母屋屋根の建物です。柵で仕切られた内陣の神器を祀る処には彩色された透し彫りがあり、脇には神輿も安置され、外陣には絵馬が飾られています。遠野らしさを持つ歴史的建造物として高く評価できます。



写真 2-18 宮守観音堂の外観

写真 2-19 彩色のある透かし彫りのある内陣

② 寺院

青森県八戸市の根城南部氏が遠野の横田城(鍋倉城)に移封された折に、対泉院や大慈寺など南部氏に縁のある寺も移転しました。市指定文化財の寺院は、唐破風と向拝が立派な瑞応院本堂だけですが、柳玄寺の唐破風屋根の四脚門の意匠、特に組物には興味深いものがあり、特に仏陀の弟子達と想われる彫像の仕草などにユーモアが感じられます。



写真 2-20 唐破風屋根の柳玄寺の四脚門



写真 2-21 四脚門内側に施された仏陀の弟子達の彫物

③ 社会施設

上閉伊郡の中心都市であった遠野には多くの官公庁が建てられましたが、現存するのは現遠野簡易裁判所に建てられていた「旧遠野区裁判所」を遠野市立図書館傍に移築した木造平屋建ての「老人憩いの家」だけとなっています。戦後の昭和28年(1953)に建てられた旧青笹村役場庁舎(現青笹村民俗館)は、構成主義的なモダンな空間構成の木造モルタル仕上げの建造物です。外観はモダンですが、内部は和室に障子などを使った和洋折衷仕上げとなっています。



写真 2-22 旧遠野区裁判所(老人憩いの家)写真



2-23 旧青笹村役場庁舎(現青笹村民俗館)

他の現存する歴史的な社会施設には、昭和8年の昭和三陸地震津波や冷害による庶民の暮らしを慮った昭和天皇から賜った冷害に備えて食料を備蓄する恩賜郷倉があります。保存状況が最も良い恩賜郷倉は、上郷地区の農協所有から個人所有に変わった遺構です。もうひとつは、昭和7年(1932)に旧塚沢小学校に建てられた石造の天皇陛下の肖像を安置した奉安殿で、現在は塚沢神社境内奥に移築されています。



写真2-24 恩賜郷倉（上郷町）



写真2-25 奉安殿（宮守町、旧塚沢小から移築）

④ 商業施設

近世から内陸部と沿岸部の交易で栄えてきた城下町遠野は、街道の要所として商いと宿場町としても栄えてきました。柳田国男が見た往時の遠野を思い起こす縁となる高善旅館が「とおの物語の館」に移築保存され、公開されています。3度遠野を訪れた柳田国男が宿泊した部屋が当時のままに設えられています。



写真2-26 「とおの物語の館」(旧高善旅館)



写真2-27 柳田国男が宿泊した部屋

遠野市街地は明治24年(1891)の大火で、穀町・一日市町で200余戸焼失しました。その復興のために火事に強い土蔵造りを店舗にした「店蔵」が普及しました。その背景には、明治29年(1896)の明治三陸地震津波でも土蔵の被害が少なかったことがあります。黒漆喰に鍍絵を施した店蔵「小林荒物雑貨店」は遠野市の指定文化財ですが、その他の店蔵は、正面をモダンに改修した看板建築化していることもあって、その実態は明らかではありません。

昭和2年(1927)にも仲町の約60戸が焼失する大火がありました。関東大震災後であったために、正面に多様な洋風装飾を施した多くの看板建築が建てられました。そのひとつが現コモンズ・スペースです。正面から見ると総2階建てですが、脇を覗くと正面だけ飾った看板建築であることが判ります。



写真 2-28

正面だけを現代化し、看板建築化した店蔵



写真 2-29

正面を洋風装飾した看板建築
(コモンズ・スペース)

⑤ 町屋

遠野の町屋の特徴的な形態のひとつは、間口一杯に建てられた平入りの2階建てのほぼ中央にカグジ（裏庭）に繋がる通路を取っていることです。その代表的事例が現「民宿古軒」で、通路を歩いてカグジ(裏庭)に入ると、平入りの2階屋にL字状に接続した出桁の2階建て住宅が建っています。



写真 2-30 1階中央に通路を持つ民宿古軒



写真 2-31 カグジ(裏庭)に出桁の2階建てをL字状に接続



写真 2-32

洋小屋組(トラス)を使った都市住宅風町家



写真 2-33

アールヌーボー風意匠の鋳鉄製金具

都市住宅に近い遺構も残っており、瓦葺き・切妻屋根平入りの簡素な総2階建て・漆喰仕上げの住宅です。妻壁には洋小屋組のトラス組をあらわし、玄関周りにはアールヌーボー風の鋳鉄製金具を使用するなど近代建築技術の地方普及の一端があらわれています。

遠野以外の宿場町にも特徴的な町屋が残っています。小友町には、総ガラス張りとも言える二階建て町家があります。ガラス窓の棧組も非常に凝ったものです。また、道路側1階脇に設えた戸袋がデザイン上の特徴といえます。

附馬牛町には、妻壁に日の出を模したファンライト装飾を施した妻入の洋館がほぼ建築当初のままで残されています。この興味深いデザインの近代建築がこれまでの調査で取り上げられなかったことに遠野らしさが顕れていると考えられます。



写真 2-34

ほぼ総ガラス張りの町屋（小友町）



写真 2-35

ファンライト装飾を持つ洋館(附馬牛町)

⑥ 町屋の蔵（町屋に付属する蔵）

遠野市中央通り街区のカグジ(裏庭)に遠野では見られない唐破風に鏝絵を施した窓を持つ漆喰仕上げの蔵があります。特徴的な鏝絵を施した蔵で知られる旧花泉村（現一ノ関市）の蔵に通じるものがあります。外観は、度重なる地震で漆喰壁に斜めに大きな剪断亀裂が入り、漆喰も剥離・落下するなど痛みが進んでいますが、鏝絵を施した貴重な土蔵として保全・活用を考えたい歴史的建造物です。



写真 2-36 唐破風付き窓を持つ文庫蔵



写真 2-37 唐破風や窓枠に鏝絵が施されている

市街地には多くの土蔵が建てられていますが、仕上げ途中と観られる土壁のままの土蔵が少なくありません。主屋を漆喰仕上げして、土蔵をナマコ壁仕上げまでしているにもかかわらず外壁及び軒廻りを土壁のままにしておく遺構が多く、ナマコ壁や軒廻りの鉢巻きや家紋飾りの下地まで準備していますが、全体は土壁のままの蔵も残っています。



写真 2-38 ナマコ壁だけ仕上げた蔵



写真 2-39 ナマコ壁も下地のままの蔵

⑦ 農家

市街地にも農家が残っていますが、代表的遺構は城下や宿場町郊外に残っています。上郷町に残る農家は、広大な屋敷のほぼ中央右手に座敷を構え、右手脇に蔵、左手脇に納屋が建つ左勝手の屋敷構えです。さらに、蔵の右手奥には山ノ神の社が建ち、納屋の左手前には水の神の社が建てられています。住宅と納屋の接合部にはカド（川処）があり、生活用水として使われています。



写真 2-40 左手から納屋・主屋・土蔵



写真 2-41 納屋と主屋の接合部にあるカド（川処）

南部曲り家として指定を受けた伊藤家住宅（国重文、花巻市）は、解体修理時に納屋を主屋に後補したことが明らかになり、納屋と主屋を別棟で修復しました。今回の調査で、曲り家の厩を切り離して、直屋に改造した事例があり、分離した厩は納屋として使用されています。元厩の納屋の桁で柱を抜き、作業空間が確保されていることから確認できます。



写真 2-42

右手の白い腰壁部分が厩を撤去した部分



写真 2-43

元厩を納屋として再利用した柱のない軒下空間

遠野市内で最も古い形式の曲り家は、土淵町栃内地域に残っています。規模が小さいだけで無く、江戸時代の軒高制限を伺わせる軒の低さです。茅葺屋根の平屋根に残る煙出し用楕円形破風も古い形式です。また、戦後に建てられたと看られるスレート葺・入母屋屋根・漆喰仕上げ・総2階建ての農家が小友町に建っています。スレートは明治三陸地震津波後に、雄勝町（現石巻市）から三陸沿岸地域に普及した屋根葺材であり、茅や瓦に較べて高価な建材でした。



写真 2-44

最も古い形式の曲家（土淵町栃内）
（借用して複写した写真）



写真 2-45

スレート葺き・漆喰仕上げの農家（小友町）

⑧ 農家蔵（農家に付属する蔵）

農家でも生活に余裕ができた証しとして蔵を建てるのが慣例でした。蔵の用途は文庫蔵だけでなく、漬物蔵や穀物蔵など多様です。

一般的な蔵は、3間×5間前後の大きさで、切妻屋根の平入あるいは妻入形式です。外観仕上げは、町屋の蔵と同様に土壁仕上げから漆喰壁仕上げまでありますが、やはり腰壁をナマコ壁に仕上げる一方で、外壁や軒回りを土壁のままとする蔵も少なくありません。

農家の蔵らしさは、外壁を風雨から護るために外壁から半間程度離して設置する置き壁に象徴されます。置き壁は強い風雨に見舞われる平野部や山裾の蔵に多く見られます。



写真 2-46

腰壁だけをナマコ壁で仕上げた蔵



写真 2-47

置き壁で風雨から完全に土壁を保護した土蔵

農家の蔵には、数は少ないものの外壁を板壁とした板倉も作られています。窓には板を引き違いとした無双窓が使われています。また、建材及び建築技術の近代化をうけて、外壁や基礎にレンガを積み、蔵戸や窓に鉄扉を使うレンガ造の蔵も作られました。レンガ蔵の外観の特徴は外壁の中程に水切りのための胴蛇腹を廻していることです。



写真 2-48 開口部に無双窓を使った板蔵



写真 2-49 短い軒に胴蛇腹を持つレンガ蔵

⑨ 納屋

農家の重要な付属屋が農機具を収め、作業場となる納屋です。一般的には、納屋は木造の土壁や板壁の簡素な建造物で、材料も古材を使い回すことも少なくありません。

今回の調査で、総漆喰仕上げの3階建ての瀟洒な納屋を発見しました。特に3階は半間ほどの出桁で支えられているなど、建築技術的にも優れた建造物です。



写真 2-50
一般的な納屋は木造の簡素な建造物



写真 2-51
総漆喰仕上げの出桁による3階建ての納屋

⑩ 屋敷神

信仰の厚い遠野では、屋敷神を祀る屋敷も多くあります。遠野特有と考えられる屋敷神は陶器のお稲荷様で、屋敷の東側に西向きに構えることが大半です。中には、小さいながらも鳥居に社を構えて水神様を祀る事例があり、かつて肝入などを勤めた家系では、東に山の神、西に水の神を祀る屋敷もあります。



写真 2-52 西向きに水神様を祀った屋敷神



写真 2-53 屋敷の東側に山の神を祀った社

⑪ その他（ライフライン関連建造物ほか）

指定文化財で扱う「建造物」は、建物だけでなく、五輪塔などの石積みの内部空間を持たない人造物も含まれています。今回の調査では、これまで注目されてこなかった橋や水路など社会基盤（ライフライン）に関する建造物も取り上げることとします。重要文化的景観を考えると、ライフラインに関する建造物は重要な景観構成要素となります。

猿ヶ石川沿いの盆地に拓けた遠野の歴史を振り返ると、大同年間(806-810)に松崎町矢崎に灌漑堰を作るなど、灌漑施設や溜め池、築堤などのライフライン整備により遠野らしい生活文化を築いてきたと言えます。

遠野に現存する主なライフライン建造物のひとつがJR釜石線宮守駅近くの五連アーチによる鉄筋コンクリート造のめがね橋です。また、遠野では、江戸時代から積極的に灌漑や築堤などの整備が進み、特に明治から大正時代にかけては多くの耕地整理組合による大規模な開墾及び開田が行われて現在の遠野の田園景観が形成されました。その代表遺構のひとつが、松崎・土淵連合耕地整理組合により大正5年に造られたコンクリート造の架橋水路です。



写真 2-54

J R 釜石線宮守川橋梁 めがね橋(1943)



写真 2-55

コンクリート造の架橋水路
(1914、松崎・土淵連合耕地整理組合)

2) 建築的特徴

① 屋敷構え

社会と屋敷の関係を表す空間構成を意味し、敷地境界と出入口(門)の作り方と住宅・付属屋の構え方がその関係を表象していると考えられます。

- i 町屋：旧城下町であった遠野や街道筋の宿場町だった宮守町達曾部や小友町の屋敷は、道路に面した間口が狭く、奥行きが長い短冊形のため、他の城下町や宿場町と同様に道路側に店舗及び住宅を建て、カグジ(裏庭)に文庫蔵を建てるのが一般的でした。
- ii 農家：町割に制約されないために間口が広い屋敷を構え、出入口廻りに納屋を配し、向かって右手に座敷を配する左勝手の曲り家が多くみられます。蔵は、主に曲り家の前庭をコの字に囲むように建てられています。

② 主な建築形態

- i 町屋：短冊形の敷地に対して、間口一杯に建てられた平入り、あるいは妻入の2階建ての住宅が主です。妻入の場合は通り土間を持った奥に細長い住宅になります。平入り住宅の場合は、主屋に出桁の2階屋をL字状に接合することが多くなっています。
- ii 農家：L字状のいわゆる南部曲家が多いのですが、厩を取り外して直屋に改造した遺構もあります。屋根は寄棟屋根が主で、鉄板葺きに改装する際、入母屋屋根に改造

する曲り家が多くみられます。

- iii 蔵（町屋蔵・農家蔵）：3間×5間前後の平面に瓦葺き・切妻屋根を掛けた平屋又は2階建ての蔵が大半です。
- iv 納屋：農家の規模や生業に併せて、平屋の板壁の納屋から漆喰仕上げの出桁の3階建てまで多様です。

③ 空間構成

今回の調査は外観の目視調査が主でしたが、ヒアリングできた一部町屋と農家では、吹き抜けを持つジョイが特徴的でした。これまでの調査では、注目されなかった特徴です。もうひとつの特徴は、厩あるいは土間入り口廻りに3間から5間飛ばしの長い桁を掛けて柱を抜き、軒下に広い作業スペースを確保していることです。



写真 2-56

ジョイ(広間)を吹き抜けとした農家



写真 2-57

厩軒下を多目的空間とした曲り家

④ 構法

- i 町屋：一見すると、町屋は伝統的構法で建てられていると考えられていますが、遠野では切妻屋根端部を切り落としたカブト屋根とも呼ばれる「ドイツ破風」の屋根や洋小屋組のトラスを妻壁に見せる町屋も見られます。



写真 2-58 カブト屋根(ドイツ破風)



写真 2-59 洋小屋組(トラス)を妻壁に顕した町家

2階建て町屋の構法的形態的特徴として、2階を半間程度の出桁で支える構法が遠野町や宮守町などの城下や宿場町でよく使われています。また、遠野市街では間口の広い町屋の場合、中央に通り口を取っている町屋も特徴的です。



写真 2-60

2階を出桁で受けている町家



写真 2-61

広い間口一杯に建つ住宅の中央に通路を確保

- ii 農家：基本的には、直屋でも曲り家でも伝統的な木造在来構法で建てられますが、厩廻りや土間廻りの小屋組の受け方に特徴があります。土間廻りの小屋組を受ける長い桁を掛けて柱を抜いて、外壁を1間程下げて軒下に作業空間を確保することが特長となっています。

曲り部分の小屋組を受けるために、斜めに腕木を出して船柁を支える組み方が、青笹町及び上郷町の曲り家に見られます。



写真 2-62

3間～5間の桁を掛けて柱を抜く架構



写真 2-63

厩の軒組を斜めの腕木で受ける構法

⑤ 意匠

町屋蔵や農家蔵で述べたように、蔵戸や窓の扉を漆喰仕上げ、あるいは腰壁をナマコ壁仕上げにしているものの外壁や軒廻りを土壁のままにしている土蔵も少なくないのは、伝統的な禁忌によると推定されるので、確認が必要です。また、今回の調査で、鍔

絵のある土蔵が確認できたことも成果と言えます。

町屋や農家の意匠として目に着くのは、戸袋の意匠で、杉綾模様に家紋や花など凝ったデザインが施されています。また、数少ない城下町の名残を見せる築地塀の瓦屋根を支える腕木に線型を施していることも興味深い意匠です。



写真 2-64 戸袋の意匠



写真 2-65 築地塀の屋根を支える線形付き腕木

昭和2年の大火後の近代建築には、ドイツ系近代建築運動「ユーゲントシュティル」の影響を受けた装飾を正面に施した看板建築的表現が見られます。現コモンズ・スペースは、パラペットにパピルスの装飾付け、その下に日本の伝統的青海波紋様、さらに下に幾何学的なセセッション風装飾でファサードが構成されています。もうひとつの事例は、妻壁に日の出を模したファンライト紋様をつけて、妻壁を板の縦貼りと斜め貼りを組み合わせ、その下には幾何学的紋様のモチーフ、ガラス窓の抽象的な窓枠も特徴的な洋館です。



写真 2-66 多様な装飾の看板建築風正面



写真 2-67 ファンライト紋様を基調とした洋館

エ 歴史文化を活かした街づくりへの応用

1) 文化財指定候補

今回の未指定文化財建造物の調査でAランクに評価された建造物は、文化財指定候補として十分な価値があると評価できます。国・県及び遠野市指定文化財の大半が和風建

造物で、近代建築は余り注目されて来ませんでした。ファンライトを妻壁に持つ2階建て洋館は歴史的近代建築として高く評価できます。



写真2-68 ほぼ建築当初のまま残る2階建て洋館

2) 伝統的建築技術・建材を活かした歴史的建造物の改修

歴史的建造物を現代生活に適応した改修の事例収集を通して、生活の考え方・設計技術・建築技術などのガイドライン策定に活用することができます。例えば、厩を居室に改修し、曲がりの軒下を斜路に改修した事例が有効です。既存の軸組を活かした空間構成と伝統的な色使いに合わせた現代の建材の使い方が優れています。



写真2-69 厩を居室に改造し、軒下に斜路を新設した例

3) 街づくりへの応用

1950年に建設されたJR釜石線の遠野駅舎は、旧釜石鉱山事務所（1951年建設、釜石市、登録文化財）と類似した硬質コンクリート・ブロック造で、戦後の復興を象徴す

る建造物です。市民や鉄道愛好家からの保存要望は高いのですが、耐震性や維持管理の問題から建て替えが検討されています。現駅舎のイメージを継承した建て替え計画は歴史文化を活かす有効な方法のひとつで、歴史的建造物を街づくりへ活かす一方途です。

遠野市のポープリ計画では、歴史的街並や建築デザインを活かした大工町の街づくりを行い、建設省などから高い評価を受けてきました。近年、伝統的街並や町屋デザインを引用した公営住宅作りを進め、歴史文化を活かした街づくりの一助となっています。



写真 2-70 J R 釜石線遠野駅舎（1950 年建設） 写真 2-71 遠野らしさを活かした公営住宅

(3) 民俗慣習に関する文化的資産

民俗慣習に関する文化的資産として、調査資料、郷土誌などの資料を基に、年中行事、伝承と語り部、神社の祭礼、食文化の項目を設け整理しました。

ア 年中行事

時代や社会環境の変化に伴い、行われなくなった行事や、行われている地域が減少している行事もありますが、遠野では現在も比較的古くから行われてきた行事が残されています。その民俗慣習に関する年中行事について、これまでに実施した調査記録や郷土誌などの資料を基に一覧表として整理し、特徴的なものについてまとめました。

小正月行事やお盆の行事、12月の行事は多数あります。お盆の行事は今でも比較的によく残っていますが、小正月の行事は行われる地域が少なくなり、12月の行事はあまり見られなくなっています。

表 2-6 遠野市の年中行事一覧

月	日	市内各地の年中行事(旧暦)
1月	元日	元朝詣・若水汲み(しめ縄を付けた手桶に、松葉を添えた柄杓で汲んで若水を迎える)・年始の挨拶廻り
	2日	物始め(新しく買った道具に柄を入れたりする)、初荷、姑礼(嫁婿夫婦揃って里帰りする)
	3日	7日まで業を休む

月	日	市内各地の年中行事(旧暦)
	5日	御供え開き(お供餅を下げて食べる)、門松納め(門松を解体して納める)
	7日	七草粥(朝早く、芹を入れた粥を作って食べる)
	11日	飴の餅(鬼に舌を抜かれないように、餅に飴をつけて食べる)
	14日	小正月の餅つき年取りの準備の日。
	15日	今日から20日までは小正月
		御作立(端木団子、粟穂、豆木、繭団子)、稲架(稲穂に見立てた小さな餅を飾る)、なり木(夕顔の花に見立てて前庭に飾る)、窓ふさぎ(悪病除け)、やろぐろ(新しい領主南部氏に希望を託し、迎えた時の名残と言われる。歌を唱えながら豆の粉とそば粉を榊に入れ、門口から入口まで撒きながら往復する)、烏の年取り(子供たちが唄を歌い集まった烏に餅を投げてやる)、お田植(子供たちが家々を回り、庭の雪の上に松葉を苗に見立てて田植えのまねごとをし、餅やお金をもらう)、年見(稲の豊凶を占う)、月見(その年の気候を占う)、鼠・鍵の年取り(小さく切った餅を天井に投げ、臼や馬釜などに供える。備えた餅を食べるとその年は病気にならないと言われた)、畑蒔き(子供たちが種まきのまねごとをして、家々を回り餅やお金をもらう)、屋根葺き(猫柳と熊笹を束ね戸口の庇にさす)、なり木攻め(果実を実らせるまじない)
	16日	女達の安息日。駒参り(荒川駒形神社にお参りし、帰りに笹の葉を取ってきて馬に食べさせる)、仏参り-地獄の釜の蓋が開く日。若水汲み
	20日	粟刈り(収穫の碑としてお作立を片付ける)、稲架刈り
	28日	小友町裸参り
	30日	2月の年取、厄年の厄払い
2月	1日	年祝い
	3日	遊び日
	9日	やさら(八皿-材料やお金を持ち寄り、ご馳走を食べる。南部家、九曜紋の由来とも言われる)、たなはぎり(砂と実りをより分ける)、初牛(初牛の日に仕事を休む)
3月	3日	節分、雛祭り、かまこたき(子供たちが材料を持ち寄り野外で調理し食べる)、一日市のお雛見
	16日	十六団子(五升榊に団子を十六個入れて、農神様に供える)
4月	8日	花まつり-お釈迦様の誕生日。お薬師まつり、お駒さまのお祭り。
5月	5日	端午の節句、屋根ふき(菖蒲ふき-夕方菖蒲と蓬を束ねて庇にさす)、菖蒲湯
	-	早苗取(さなぶり-田植え後に餅米を出し合って餅をつきご馳走する)

月	日	市内各地の年中行事(旧暦)
6月	1日	歯固め(「鬼の頭ごなし」とも言い、正月に作った干し餅を食べる)
	15日	馬っこつなぎ
7月	7日	七日(なのか日-墓掃除)、七夕祭り
	13日	今日から盆(灯籠木、施餓鬼棚、掛け軸の虫干し、まつ火焚き)
	14日	墓参、14・15日から親類知己の仏様を拝みにお互いに各家庭を訪問する。 新精霊、湧水念仏
	16日	仏送り-施餓鬼供養物を納める。灯籠流し(船っこ流し)
	20日	二十日盆、寺詣り
	30日	送り盆(晦日盆)
8月	15日	御月見
9月	16日	十六団子
10月	20日	恵比寿講
11月	23日	大師粥(子育てに困って年中小豆粥を食べさせた大師の気持ちを体得するため、を小豆粥に萩の箸を3本添えて供える)
	-	庭仕舞(月の下旬に行われることが多い、収穫作業が終わって庭が片付いたお祝いと慰労の行事、親しい人を招いてご馳走する)
12月	3日	田の神様の年越し(小豆飯を供える)
	8日	薬師の年越し(医者や獣医に薬や治療代をまとめて支払う日)
	9日	稻荷の年越し
	10日	御大黒様の年越し(豆料理を食べる)
	12日	山の神様の年越し(木を切ることを忌む)
	15日	若恵比寿の年越し(この日は必ず尾頭付きの魚を食べる)
	17日	観音様の年越し
	20日	陸の神様の年越し
	22日	太子様の年越し(職業的な行事で、職人が集まり聖徳太子を祀り、飲食しながら取り決めごとを申し合わせる)
	24日	愛宕様の年越し
	25日	文珠様の年越し
	27日	煤掃き
	28日	米とき、豆腐摺りなど年越しの仕度をする。
29日	新年用の御供餅その他の餅つきをする。	
30日	大晦日、年取り	

【お作立】

お作立は小正月行事の象徴ともいえる行事で、子供たちに農業を教える機会として、また、秋の豊作を祈り、縁起を祝ったものです。端木団子はお作立の中心となるもので、端木の傘枝が3段または5段となったものを使い、枝の先にだんごを差し付けて白か米俵に立てます。他にも、粟穂、豆木、繭団子を付けます。



写真2-72 門松・お田植え



写真2-73 小友町裸参り

【小友町裸参り】

小友町裸参りの起源は明らかではありませんが、修験者源龍院仙林(?~1727)が巖龍神社の別当を勤めていた時に不動講を結び、元禄元年(1688~1704)に拝殿を造営した翌年の初不動の日(1月28日)に不動講の数名を名代として裸参りを行ったのが始まりと伝えられています。現在では2月28日に行われ、腰に注連をしめ、頭に鉢巻をまき、草鞋履きに口に護符をくわえた禪姿の男達が、神社の大鈴をもった厄男(42歳)を先頭に一列となって各々手に灯籠を持ち、神社と上宿橋のそばの大般若供養塔の間を3往復して五穀豊穰・無病息災などを祈願します。このような行事は遠野市内では他に例がなく、300有余年の間受け継がれてきた民俗行事です。

【一日市のお雛見】

いつから始まったかは定かではありませんが、遠野南部のお殿様が町方にもたらした文化ともいわれ、毎年、2月下旬~3月上旬に遠野市中心市街地にて開催されています。上一日市おかみさんの会が中心となり、それぞれのお店、個人宅でお雛様を飾り、遊覧客に対してその雛の由来などをお話しして、甘酒や菓子でもてなします。現在では、商工会、観光協会などと共に冬の目玉イベントとして実施されています。



写真2-74 一日市のお雛見



写真2-75 馬っこつなぎ

【馬っこつなぎ】

木版で馬の絵を紙に刷り、馬の鼻先の方にハサミで切り込みを入れ、手綱を作ります。八坂神社の祭典の早朝に馬の飼育と馬を丈夫にするため、米の粉を水で練り、糊状にして馬の口元につけて、井戸や水田の水口につなぎ、家族の無病息災や穀物の豊作祈願をする行事です。小友町の八坂神社では祭典と連携して行われています。八坂神社は、「お天王さん」として地域民に親しまれており、牛頭天王(菩薩さまの生まれ変わりで、衆生斉度のため、この世に使わされたといわれている)と應仁天皇が祭神で、多発する冷水害、凶作、疫病の鎮静祈願のため祀られました。天王は朝早く馬に乗ってくるので、丈夫な馬を早朝に迎えに発させるために神社や水田の水口に繋ぐといわれています。

【新精霊(みそうろう)】

小友町長野地区で、お盆の8月14日に新仏のためにお寺、初盆の墓、家などに地域の人々が集まり、お念仏を唱える慣習が近世以前から続いているといわれています。唱えられる念仏は真言宗、浄土宗の思想で構成されていますが、長野地区の人々は西来院(曹洞宗)の檀家で、西来院の開基(天文18年(1549))以前に能伝坊(高野聖)によって伝えられたとされています。高野聖と金山との関連性が背景にあると考えられます。長野地区の中でも、中地区では昔ながらの姿での行事を守っており、初盆のある時は毎年行われています。



写真 2-76 新精霊(みそろう)



写真 2-77 湧水念仏(わくみずねんぶつ)

【湧水念仏(わくみずねんぶつ)】

お盆に「念仏衆」と呼ばれる宮守町達曽部湧水地区の地区民が、寺や墓前で太鼓と笛、鐘(当り鉦)、手平鐘を奏でて死者を供養するもので、希望があれば自宅まで出向き、位牌の前でも行われます。発端を示す記録はありませんが、1791年頃には既に行われていたものと考えられています。近接する中斉地区の「念仏剣舞」と、伝えられている演目が同じことから、中斉地区の念仏剣舞から伝播したものと考えられています。①新盆の家に入るときに祈りに似た「光妙辺浄」を、②その後亡くなったのが男性の場合は「富士山」、③女性の場合は「箱根山」、④子供の場合は「花の讃」を、⑤墓前では「墓回尙」を唱えます。念仏は通常6人程度で構成され、練習は、お盆前の8月7日～14日の1週間程で行われます。あまり上手になると、死者が出るのを待っているような印象を与え縁起が悪いとされるため、練習を重ねてはいけないという特異な伝承形態を有し、地域ではそもそもちゃんと覚えるものではないと伝えられてきました。1人も死者が出なかった年は、目出度きを祝います。



写真 2-78 ムカイトロゲ



写真 2-79 船っこ流し

【灯笼木(ムカイトロゲ)】

お盆になると、施餓鬼棚と呼ばれる棚を組み立て、仏壇からお位牌を移して供物を供えます。新しい仏様がいる家では庭先に灯笼木と呼ばれる長い木を立てます。長い木の先に青い杉の葉を束ねたものを付け、その下に小幅で長さ五尺くらいの布を垂らします。亡くなった仏様が男性の場合は白い布で、女性の場合には赤い布を垂らします。盆中の3日間夜は灯笼に点灯して掲げ、亡くなった仏様の魂が迷わず家に帰ってくる目印として立てられるもので、今も多くの家で灯笼木が立てられています。

【灯笼流し(船っこ流し)】

お盆が終わると施餓鬼棚を片付けます。キュウリやナスに萱などで足を付け、馬に見立てた乗り物にお供えした供物をまとめ、わらの船に乗せ夜に川に流します。火をつけた小さな灯笼と併せ、灯笼流しとして祖先を送る行事です。附馬牛町上柳地区では今でも盆の行事として行われています。



写真2-80 山の神の年越し

【山の神の年越し】

『遠野物語拾遺』第95話には、12月12日は山の神の年越しの日であり、この日に山の神が自分の領分の木の数を数えるため、間違えて山の木に数えられないよう入山を慎むという謂れが記載されています。このしきたりは今も市内各所で守られ、山仕事に携わる人は仕事を休んで年越しを祝っています。中でも、土淵町米通地区の山の神には斧と刀を携えたご本尊が祀られており、毎年、集落単位で年越しの行事を行っています。この日住民は男女問わずそれぞれ仕事を休んで一同に集まり、山の神を祀って終日を過ごします。

【羽黒堂の堂籠り】

綾織町の羽黒堂では、旧暦12月17日に、綾織町寒風、宮ノ目集落の人々が酒や料理を持って集まり、毎年夜籠りを行っています。言い伝えによれば、羽黒堂は坂上田

村麻呂が寒風の蝦夷「岩武」を討ったあと、村人達の繁栄を祈願して権現を祀ったとされ、本尊として大同二年三月三日(私年号)の銘がある懸仏があります。

【氷口御祝(すがちごいわい)】

小友町氷口地区に伝わる祝い事の行事に唄われる祝い唄で、由来は明らかではありませんが江戸時代の終わり頃から唄い続けられてきたといわれています。男衆の謡曲と女衆のまがき節という歌詞も旋律も異なる二つの唄を大勢で同時に唄い、最後は同時に終曲します。唄い手にとっては間合いの取り方や呼吸のあわせ方などに細やかな神経を使う気の抜けない唄であるといわれます。謡曲は最初観世流でしたが、大正5年(1916)を境にして現在の高安流に徐々に変わってきたといわれています。氷口地域のめでたい行事には欠かすことのできない祝い唄であり、儀式唄でもあります。戦前は、氷口集落の男女が二十歳になると冬にしっかり稽古するのが慣わしであったといわれます。



写真 2-81 氷口御祝

イ 伝承と語り部

遠野には、今も文化的資産にまつわる伝説や、様々な物語が郷土史などに記録資料として多く残されています。それは親から子、子から孫へと語り継がれた大切な遠野の文化的資産となっています。かつて、その文化を担った人々は家々の古老で、『遠野物語』を生むこととなりました。やがて、古老達の昔語りが少なくなり、昔語りを継承した特定の人達は、語り部と呼ばれ、多くの人々に様々な話をするようになりました。中でも、鈴木サツさん、白幡ミヨシさん、正保家ミヤさんなどは全国各地で昔話を語り、「遠野の語り部」という名称は全国的なものとなりました。この様な語り部の文化を録音記録などの資料として保管しています。現在では、遠野物語研究所が開催した語り部教室を契機として、「遠野昔話語り部の会」が組織され、語りの研鑽を積みながら語りの文化を継承しています。また、「遠野語り部 1000 人プロジェクト」を立ち上げ、子ども語り部の養成や発掘にも力を入れています。



写真2-82 遠野の語り部(正保家ミヤさん)



写真2-83 堂籠りが行われている羽黒堂

ウ 神社の祭礼

市内の主な神社で行われる例祭について整理しました。かつて旧暦で行われていた例祭は、新暦に変更され、社会情勢の変化により、特定の日ではなく、土日に開催されることも多く、その年によって開催日が変わっているお祭りもあります。また、神社の例祭は、民俗芸能の伝承にとって重要な役割を果たしている側面を持っていますが、その例祭で奉納される神楽やしし踊りなどの民俗芸能は、その年によって出演団体が異なる場合があります。

表2-7 神社の例祭一覧

祭礼の名称	例祭の時期	例祭の場所	関連する文化財(民俗芸能)
卯子酉神社例祭	4月上旬	卯子酉神社	
宇迦神社例祭	4月下旬	宇迦神社	
荒川駒形神社例祭	5月上旬	荒川駒形神社	
山崎金勢様まつり	5月上旬	山崎金勢様	
南部神社例大祭	5月の連休	南部神社	遠野太神楽、細越獅子踊り、石上神楽、飯豊神楽、鷹鳥屋獅子踊りなど
山口薬師堂例祭(宵宮)	旧4月8日	山口の薬師堂	山口さんさ踊り
八幡神社例祭(小友)	6月	八幡神社	外山百姓踊り
八坂神社例祭	6月第2日曜	八坂神社	馬子繋ぎ、外山神楽
湧口の明神神社例祭	旧6月15日	明神神社	館大神楽
日出神社例祭	6月第3日曜	日出神社	森ノ下さんさ踊り、しし踊りなど
塚沢神社例祭	旧6月23日	塚沢神社	塚沢早池峰神楽
日枝神社例祭	旧6月1日	日枝神社	石上神楽、飯豊神楽など
程洞稻荷神社例祭	7月上旬	程洞稻荷神社	
山谷観音例祭	7月第1日曜	山谷観音堂	山谷獅子踊り

祭礼の名称	例祭の時期	例祭の場所	関連する文化財(民俗芸能)
大出早池峯神社宵宮祭	7月17日	早池峯神社	鱒沢神楽、平倉神楽、小倉神楽など
大出早池峯神社例祭	7月18日	早池峯神社	早池峰しし踊り、大出早池峰神楽
欠ノ上稲荷神社例祭	7月第1日曜	欠ノ上稲荷神社	
鞍迫観音・白山神社例祭	7月第2日曜	鞍迫観音堂	鱒沢神楽
綾織(山口)愛宕神社例祭	旧7月24日	山口愛宕神社	石上神楽、山口太神楽
中斉の駒形神社例祭	8月	中斉の駒形神社	行山流湧水鹿踊、湧水神楽など
加茂神社例祭	8月上旬	加茂神社	
多賀神社例祭	8月上旬	多賀神社	
石上神社例祭	8月7日	石上神社	石上神楽
金毘羅神社例祭(上郷)	8月第1日曜		平倉神楽
平野原神明神社例祭	8月14日	平野原神明神社	平野原田植踊、平野原さんさ踊りなど
綾織愛宕神社例祭	旧7月24日	綾織愛宕神社	
倭文神社例祭	8月20日頃	倭文神社	山口さんさ踊り、飯豊神楽、土淵しし踊り、似田貝神楽
駒形神社例祭(土淵)	8月20日前後の金曜日	土淵駒形神社	飯豊神楽
愛宕神社例祭	8月第4土曜	宮守観音	上宮守神楽、上宮守大神楽、上宮守参差踊りなど
菅原神社例祭	8月第4土曜	菅原神社	早池峰しし踊り
繫稲荷神社例祭	8月末	繫稲荷神社	平倉神楽
巖龍神社例大祭	8月最終土曜	巖龍神社	長野獅子踊り、山谷獅子踊り、外山神楽、鷹鳥屋神楽、小友南部ばやしなど
綾織駒形神社例祭	9月上旬	綾織駒形神社	
湧水の神倉神社・春日神社例祭	旧暦9月13日	神倉神社・春日神社	行山流湧水鹿踊、湧水神楽など
達曾部八幡神社例祭	9月15日	達曾部八幡神社	行山湧水鹿踊、湧水神楽、湯屋神楽、米田大神楽、館大神楽など
高館八幡神社例祭	9月15日	高館八幡神社	鱒沢神楽、鱒沢獅子踊りなど
小澤八幡神社例祭	9月15日	小澤八幡神社	鹿込鹿子踊り、鹿込神楽など
白石神社例祭	9月15日	白石神社	白石神楽など
熊野神社例祭(宮守)	9月15日	宮守熊野神社	米田大神楽

祭礼の名称	例祭の時期	例祭の場所	関連する文化財(民俗芸能)
駒形神社例祭(宮守)	旧9月29日	宮守駒形神社	鱒沢獅子踊り、上宮守神楽、鹿込神楽、迷岡神楽など
遠野郷八幡宮例大祭	9月第3(土日)	遠野郷八幡宮	市内殆どの民俗芸能
元八幡神社例祭	9月下旬	元八幡宮	
六角牛神社宵宮・六神石神社例祭	9月23日	六角牛神社	青笹しし踊り、板澤しし踊り、平倉神楽、六角牛神楽
砥森神社例祭	9月最終(土日)	砥森神社	下郷さんさ踊り、鹿込神楽、柏木平神楽など
諏訪神社例祭	10月上旬	諏訪神社	
伊豆権現神社例祭	10月下旬	伊豆神社	
伊勢両宮神社例祭	10月第4日曜		細越獅子踊り、外山神楽など
熊野神社例祭(上郷)	11月3日	上郷熊野神社	暮坪虎舞
釜平神社例祭	11月初め頃	釜平神社	野崎神楽



写真2-84 六角牛神社の例祭(青笹しし踊り)



写真2-85 砥森神社の例祭

エ 食文化

市内の広い地域で食されている、代表的な食文化には、古くから受け継がれてきた郷土食と、農産業の変化により新たに生まれた食文化が混在しています。主なものとしては、ひつつみ、かねなり、やきもち、けいらん、がんづき、ミズやタラの芽などの山菜を使った料理、ザッコ(鮎や山女魚などの川魚を炭火で焼いたもの)、ジンギスカン、暮坪かぶを使った料理、ひつこそば(ひつこと呼ばれる入れ物に入れて食べるそば)、ワサビを使った料理、どぶろく、ホップを加工した地ビールなどがあります。各家庭で作られ食べられているほか、市内の飲食店などでも提供されています。



写真 2-86 ザッコ



写真 2-87 ジンギスカン



写真 2-88 暮坪カブ



写真 2-89 ウドの酢味噌和え



写真 2-90 カネナリ



写真 2-91 ひつつみ



写真 2-92 けいらん



写真 2-93 どぶろく

(4) 信仰に関する文化的資産

信仰に関する文化的資産として、神社、神仏像、石碑、オシラサマ、供養絵額について項目を設け整理しました。『遠野物語』などの中で語られている遠野の物語としては、オシラサマやカップ、ザシキワラシの話が有名ですが、それ以外にも神社や神仏像に関する様々な伝説が語り継がれています。

ア 神社

神社は個人で祀っている小さなものを除き、現在確認できる総数は 276 社になります。その内訳として最も多い神社が「稲荷神社」43 社で、次いで「八幡宮・八幡神社」23 社、「熊野神社・熊野権現」16 社、「不動堂・不動尊」13 社、「愛宕神社」13 社、「駒形神社」12 社、「山神社」10 社、「宇迦神社」6 社、「白山神社・白山権現堂」6 社、「天満宮」5 社、「伊勢両宮」4 社、「金毘羅神社」4 社、「八坂神社」4 社、「祖師堂・御祖神社」4 社、「薬師堂」4 社などの順となっています。

「稲荷神社」や「八幡神社」「愛宕神社」など全国的に信仰された神様の分霊を勧請した神社が多数存在しますが、馬産地であったことを裏付ける駒形神社や、地域の信仰の対象、豊かな恵みをもたらす山に対する畏敬の念が深いことを示す山神社、早池峰神社、石上神社、六神石神社など、遠野の歴史風土に根付いた特徴的な神社が少なからず存在しています。他に、出羽三山や熊野神社、伊勢両宮社、諏訪神社など離れた地域で信仰された様々な神社が勧請されており、信仰の篤さと多様性が窺われます。

地域別の神社数では、多い順に土淵町 44 社、宮守町 37 社、附馬牛町 35 社、上郷町 33 社、松崎町 32 社、綾織町と青笹町がそれぞれ 26 社、遠野町 24 社、小友町 18 社となっています。地域に存在した集落の数を反映しているものと推察されます。

表 2-8 名称別神社数一覧

神社の名称	神社数	神社の名称	神社数	神社の名称	神社数
稲荷神社	43 社	伊勢両宮神社	4 社	地の神	2 社
八幡宮(神社)	23 社	金毘羅神社	4 社	加茂神社	2 社
熊野神社	16 社	八坂神社	4 社	卯子酉様	2 社
不動堂	13 社	祖師堂	4 社	羽黒神社	2 社
愛宕神社	13 社	薬師堂	4 社	月山神社	2 社
駒形神社	12 社	大日神社	3 社	菅原神社	2 社
山神社	10 社	伊豆神社	3 社	三ヶ月神社	2 社
宇迦神社	6 社	神明神社	3 社	諏訪神社	2 社
白山神社	6 社	寶領神社	3 社	御神楽神社	2 社
天満宮	5 社	早池峰神社	2 社	六神石神社	2 社

伝承などの不確定なものも含まれますが、創建年代の数的分布状況では、残念ながら半数以上は創建年代が不明で、遠野最古の信仰伝承を有する平安時代に創建された神社が12社あり、仏教と共に伝わった山岳信仰の様子を見て取れます。その後、鎌倉～室町時代にかけて創建された神社もありますが、江戸時代に創建された神社が圧倒的に多く存在しています。この数値は、全国的信仰の拡大を背景に、多くの飢饉に見舞われた遠野の人々が、信仰に救いを求めたことに起因するものと考えられます。

表2-9 創建年代別神社数(伝承記録による区分あり、総数271社、内年代不明197社)

創建年代	700年代	800年代	1000年代	1100年代	1200年代	1300年代
神社数	2社	11社	1社	9社	3社	1社
創建年代	1400年代	1500年代	1600年代	1700年代	1800年代	1900年代
神社数	1社	5社	8社	19社	10社	4社

【年代別の主要な神社】

- 800年代(平安初期)－「遠野七観音」や「六神石・六角牛神社」
- 1100年代(平安後期)－「荒川駒形神社」「山口の薬師堂」、遠野遺産「加茂神社」「新里の愛宕神社」「石上神社」
- 1500年代(室町時代中期)－「欠ノ上稲荷神社」「多賀神社」「鍋倉神社」「八坂神社(天王様)」「達曾部八幡神社」
- 1600年代(江戸時代初期)－「伊勢両宮神社」「大日山日枝神社」「篠神社」「高坪の宇迦神社」「元八幡神社」「郷社 八幡神社」「鱒沢四社・白石神社(兜明神)」
- 1700年代(江戸時代中期)－「松尾神社」「程洞稲荷神社」「綾織愛宕神社」「阿多織駒形神社」「八坂神社(牛頭天王)」「新山神社」「伊豆神社」「赤羽根稲荷神社」「繫稲荷神社」「森ノ下の伊勢両宮神社」「米通の熊野神社」
- 1800年代(江戸時代後期)－「千葉家の稲荷社」遠野遺産「卯子酉様」「上中宿の熊野神社」「村兵稲荷神社」「安戸の正一位稲荷神社」「鱒沢四社・愛宕神社」「正一位鋳物稲荷神社」
- 1900年代(現代)－「宇迦神社(中央通り)」「倉堀神社(卯子酉様と同じ境内)」「沢田駒形神社」

イ 神仏像

遠野市(調査未了の宮守町を除く)の神仏像は全部で485体あり、数として最も多い神仏像は「十王像」28体となっています。次いで「不動明王像」23体、「薬師如来像」20体、「阿弥陀如来坐像」18体、「釈迦如来像」16体、「祖師像」14体、「普賢菩薩像」12

体、「地蔵菩薩」12体、「文殊菩薩像」9体、「達磨大師像」8体などの順となっています。遠野の特徴的な神仏像として「山神像」「オクナイサマ」「懸仏像」などがあるほか、この表の神仏像としてカウントしていませんが、その他の神仏像とし各家々に祀られている「オシラサマ」や、子供たちが背負い、撫でて遊んだと伝えられる西教寺の「オビズルサマ」などがあります。

表2-10 名称別神仏像数

神仏像の名称	神仏数	神仏像の名称	神仏数	神仏像の名称	神仏数
十王像	28体	達磨大師	8体	能除太子像	5体
不動明王	23体	男神像	7体	(懸仏像)	5体
薬師如来	20体	大権修理菩薩	7体	聖観音菩薩	5体
阿弥陀如来	18体	千手観音	6体	如来像	5体
釈迦如来	16体	十一面観音	6体	地蔵像	5体
祖師像	14体	勢至菩薩	6体	稻荷神像	4体
普賢菩薩	12体	僧形像	6体	役行者像	4体
地蔵菩薩	12体	権現像	6体	大黒天	4体
文殊菩薩	9体	六地蔵	6体	オクナイサマ	4体
菩薩像	9体	山神像	5体	オホトケサマ	4体

地域別では、遠野町169体、綾織町74体、土淵町67体、上郷町50体、青笹町44体、附馬牛町29体、松崎町28体、小友町24体の順に多く、遠野南部氏が城下町を整備する際、一面にお寺を密集して建立した事により遠野町の神仏像が多くなっています。

製作年代別でも神社と同様、年代不明の神仏像が多くありますが、古いものでは鞍迫観音堂の十一面観音立像を始めとした平安時代の古仏が残されており、遠野七観音伝説を産んだ要因となっています。最も多いのは、時代的に新しいこともあり江戸時代に製作された神仏像で、神社が多く建立された事と同様の事由があったと推察されます。

表2-11 製作年代別神仏像数

製作年代	神仏数	製作年代	神仏数
平安時代(809~1190)	11体	江戸時代(1615~1865)	249体
鎌倉時代(1199~1329)	3体	近世後半(1868~)	13体
室町時代(1393~1570)	17体	年代不明	192体

表 2-12 製作年代別に見た主要な神仏像

	平安時代 (806~1190)	鎌倉時代 (1199~1329)	室町時代 (1393~1570)	江戸時代 (1615~1865)	近代後半 (1868~)
青笹町	菩薩像 4 体、 軍荼利明王 2 体、如来像			不動明王 3 体、地蔵菩薩 2 体	
遠野町	阿弥陀如来 2 体		十王像 8 体、奪 衣婆像、南部実 長公像、孝養太 子像	十王像 10 体、不動明王 6 体、六地 蔵 6 体、釈迦如来 5 体、普賢菩薩 5 体、文殊菩薩 5 体、地蔵菩薩 5 体、 観音菩薩 4 体、阿弥陀如来 4 体、男 神像 4 体、勢至菩薩 3 体、僧形像 2 体、能除太子 2 体、役行者像 2 体、 達磨大師像 2 体、祖師像 2 体、稻荷 神 2 体	天神像 2 体、 平和観音、鉄 造観音、普賢 菩薩、弘法大 師像、身延山 十一世像
綾織町	金銅聖観音 坐像懸仏	阿弥陀如来	懸仏像 5 体、鉄 造坐像	十王像 10 体、懸仏像 4 体、地蔵像 3 体、菩薩像 3 体、天部像 3 体、阿弥 陀如来 2 体、釈迦如来 2 体、大権修 理菩薩 2 体、達磨大師 2 体、祖師像 2 体、童子像 2 体	
宮守町	鞍迫観音堂 の十一面観 音立像				
小友町	阿弥陀如来、 勢至観音				
土淵町			道元禅師像	祖師像 5 体、不動明王 3 体、普賢菩 薩 2 体、大権修理菩薩 2 体、観音像 2 体、達磨大師 2 体	
上郷町				十一面観音 3 体、薬師如来 2 体	釈迦如来 2 体、千手観音
松崎町				菩薩像 3 体	天満宮神像 1 体
附馬牛町				釈迦三尊坐像、釈迦如来坐像、神像、 薬師如来立像、阿弥陀如来立像、十 一面観音立像、稻荷神像、不動明王 立像	八幡神像、日 蓮大菩薩坐 像



写真 2-94 松崎観音菩薩立像

ウ 遠野市の石碑

石碑は平成30年度も調査中ですが、今回の構想策定にあたり初めて整理しました。数量的には平成29年度（2017）現在までに確認された市内全域の石碑総数が2,947基となっています。中でも最も多く建立された石碑は「馬頭観世音」、ほぼ同数で「庚申塔」となっており、「金毘羅」、「念仏供養塔」「山神」などがこれに続いています。これらの石碑は、「馬魂碑」を含み全市的に分布が認められ、馬産地遠野の人々の馬に対する思い、信仰を支えにお互いに助け合ってきた暮らし、自然に対する畏怖の念などが表出されたものと理解されます。

表2-13 年代別石碑残存数

	遠野	綾織	小友	附馬牛	松崎	土淵	青笹	上郷	宮守	合計
1500年代	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
1600年代	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3
1700年代	1	9	21	6	11	18	17	12	74	169
1800年代	27	54	73	108	112	173	45	25	457	1,074
1900年代	114	85	41	46	85	125	44	14	210	764
2000年代	9	6	0	0	0	11	0	0	0	26
年代不明	69	99	26	43	86	148	153	7	279	910
総合計	220	253	161	204	296	475	259	58	1021	2,947

《傾向》

市内全域に共通した傾向としては、1700年代にはどの地域にも「馬頭観世音」は無く、「庚申」「南無阿弥陀仏」が多いと言えます。1800年代でも「庚申」「南無阿弥陀仏」や「金毘羅」が目立つのに対して、1900年代に入ると、石碑の半分を「庚申」が占める上郷町を除いた全ての地域で「馬頭観世音」が最も多くなり、反対に「庚申」「金毘羅」の数は少数となっています。

《特徴》

特徴的な点としては、松崎町、附馬牛町、土淵町、宮守町に「保食大神」が1800年後期～1900年前期に共通して登場し（青笹町にも3基あるがいずれも年代不明）、綾織町、土淵町、宮守町には「雷神」が見られ、広大な農地の存在や、気候による影響の強さが背景にあると思われます。また、青笹町と上郷町にのみ「六角牛」の石碑があり、この二つの地域では「金毘羅」が少ないことも留意されます。他に看取される特徴として、明治期の神仏分離令により破壊されたため、全国的に数が少ない「牛頭天王」の石

碑が、各地(宮守町5基、附馬牛町2基、小友町1基)に残されており、先人の思いや歴史を語り継ぐ、強い思いが感じられます。

《年代》

全体的な年代としては、1500・1600年代は数えるほどしかありませんが、1700年代から徐々に石碑数が伸びていき、1800年代に入ると1700年代の約7倍に急増し、神社や神仏像と同様の増加傾向かあると言えます。1900年代に入ると全地域に共通して石碑数は1800年代の半数ほどになることから、1700年代中頃～1800年代、江戸時代中期～後期が遠野地域において最も石碑の建立が盛んであった時期といえます。

この時代、遠野は一世紀以上にわたり天災・天候不順等で度々飢饉にみまわれ、餓死・病死者や死馬が数千人、数千頭規模に達する大飢饉が複数発生した時代であったことが石碑の多い理由と考えられます。

【綾織町－253基】

平成26年(2014)から平成28年(2016)にかけての悉皆調査の結果、253基の石碑を確認。紀年銘が刻まれ判別できる石碑のうち、綾織町内最古の石碑は、明和元年(1764)に建てられた「青面金剛塔」でした。時代別にみると、江戸期に建てられたものは41基、明治以降は113基、年代不明が99基でした。種類別では主なものに「馬頭観世音」を含む馬畜供養碑が41基、「金毘羅碑」25基、「庚申」17基、「顕彰記念碑」43基、「追分」1基などが確認されています。

1700年代では「念仏」や「祭祀講碑」が主な石碑で、1800年代に入ると、「金毘羅」などの社寺参詣碑、「馬頭観世音」などの馬畜供養碑などが増加しています。1900年代になると、社寺参詣碑、馬畜供養碑などに替わって人物の功績を讃える顕彰碑や、建築を記念した記念碑などが登場し、建碑され始めていることが分かります。

【小友町－161基】

種類が多い石碑は「庚申」39基、「馬頭観世音」29基、「金毘羅」13基、「山神」13基、「南無阿弥陀仏」8基の順となっており、各地域に見られるほとんどの種類の石碑が揃っています。小友町だけにある石碑としては「己侍供養」2基があり、文久3年(1863)小友町長野地域に疫病が発生したことから建立された「牛頭天王」の石碑があります。牛頭天王は、祇園天神とも称され、平安時代から行疫神、農業の守護神として崇め信じられてきた神様です。石碑には「疫病消滅」の文字もあり、切実な思いが窺われます。他にも地域開発に尽力した「外山開墾記念碑と及川源次郎恒次の墓碑」、「及川館一族の墓碑」や、しし踊りの上達を祈願し、創始者を供養した「獅子一吼百獣脳烈」の碑と獅子踊供養塔、義経の愛馬伝説を基に建立された「小黒号馬魂碑」、残存数が少ない「小友村道路元標と追分の碑」、小友の「水路供養塔」、鷹鳥屋の「西国巡礼塔」等、地域独

特の特徴を示す石碑があり、遠野遺産としても市内で一番多く石碑が認定を受けています。

年代的には、1700年代が21基(「庚申」10基、「南無阿弥陀仏」2基、「青面金剛」2基など)で「庚申」が最も多く、1800年代は73基(「庚申」15基、「馬頭観世音」13基、「金毘羅」9基など)に増え、「馬頭観世音」や、「金毘羅」の建立が目立ちます。1900年代には41基(「馬頭観世音」15基、「庚申」5基、「金毘羅」4基など)となり、「馬頭観世音」の数は増えますが、全体としては減少していきます。

【附馬牛町－204基】

馬産が盛んだった地域の特徴を裏付ける「馬頭観世音」が39基で圧倒的多数を占め、「庚申」は18基と「馬頭観世音」の半分ほどしかありません。他には、「金毘羅」24基、「三峯山」9基や「黄金山」5基などがあります。また、石碑の中でも「火渡の石碑群」は数多く並ぶ石碑が刊行物にも紹介され、遠野の象徴的な景観となっています。

年代的には、1600年代が1基、1700年代は6基で数えるほどしか石碑はありませんが、1800年代には108基(「金毘羅」19基、「馬頭観世音」14基、「南無阿弥陀仏」10基、「庚申」9基、「三峯山」9基、「山神」9基、「念仏供養」5基など)と一気に増え、1900年代では46基となり、この内22基が「馬頭観世音」で、次いで「保食大神」8基となっています。

【松崎町－296基】

種類が多い石碑は「庚申」44基、「馬頭観世音」41基となっており、「金毘羅」21基、「保食大神」14基がこれに続きます。他には「阿曾沼公歴代の碑」、「飢饉の碑」、「清心尼公の碑」等があり、「墓碑」20基は全地域中一番多い数値です。その要因として、古くから統治の中心的地域であった歴史的背景があるものと推察されます。また、複数の石碑が並ぶ「妻の神の石碑群」の「妻の神」は、「塞の神」とも書き、村境にあり外から悪霊が入ってくるのを防ぐ神が祀られています。ほかこの石碑群には、「六峰山」「早池峰山」「湯殿山」「山神」等、山岳信仰を示すものが多く存在します。また、松崎町には市内で唯一1500年代前半に属する「松崎観音の石碑」があり、岩手県内の古碑中、御影石の加工としては一番古い石碑として市の史跡に指定されています。

1700年代の11基には、宝暦5(1755)に起こった、餓死・病死者4千人、死馬2千頭にまで及んだ遠野郷最大の大凶作で亡くなった方々を供養する「宝暦飢饉の碑」が含まれています。1800年代では112基と一気に増加し、内訳では「庚申」28基が最も多く、次いで「金毘羅」17基、「南無阿弥陀仏」14基、「馬頭観世音」11基、「念仏供養」9基の順となっています。1900年代の85基は、「馬頭観世音」18基、「保食大神」10基、「金毘羅」4基、「山神」4基の他、耕地整理や竣工記念、学校のタイムカプセル、建物の名称等の「記念碑」が18基あり、比較的多く建立されています。

【土淵町－475基】

土淵町の石碑数は市内で2番目に多く、その中でも種類が多い石碑は「馬頭観世音」が61基、「庚申」58基「金毘羅」49基、「西國順禮」21基の順となっています。地域の人々の間で金毘羅宮・伊勢参宮の巡拝が盛んであったことが窺われます。また、他の地域と比較して多くの「雷神」10基、「奉納雷神供養」5基も建立されています。その他に「記念碑」が38基(「創立記念」や「教育発祥の地」等の学校関係の石碑、「土地改良記念」「詩歌碑」等)と市内全域の中でも圧倒的に多く、「石燈籠」16基、「眷属像」12基、「神仏像」10基等の灯籠や石像も多い事が土淵町の特徴です。

年代的には1800年代が173基で最も多く、その主な石碑は「庚申」35基、「金毘羅」35基、「馬頭観世音」24基、「南無阿弥陀仏」15基、「西國順禮」15基などとなっています。1900年代には125基が建立され、「馬頭観世音」20基、「保食大神」9基、「金毘羅」5基、「山神」5基などがあります。年代が判明している石碑のみですが、1800年代に最も多かった「庚申」が1900年代では1基も確認されておらず、庚申信仰の衰退が見て取れます。他、土淵町のみ2000年代に入っても石碑が建てられており、石碑造立に対する思いが強いことが窺えます。

【青笹町－259基】

種類が多い石碑は「馬頭観世音」43基、「庚申」41基で、次に多い「南無阿弥陀仏」が19基となり、「馬頭観世音」「庚申」の半分ほどの数となっています。青笹町は「青面金剛」13基、「金神」10基、「六角牛」5基が多い点の特徴で、逆に他の地域には多く建立された「金毘羅」がわずか2基しかありません。また、「六神石」2基は青笹町にのみある特徴的な石碑です。他「沢田駒形神社と古峯山石碑」は御神体が石碑で、境内にある「古峯山」の石碑は高さが2m74cmと大きなものです。地域では「お蒼前様」「古峰ヶ原様」と呼ばれ、馬の安全を祈願する場として親しまれてきました。

年代的には、1700年代が17基で、「南無庚申天王」が6基もあり、「南無阿弥陀仏」5基、「青面金剛」4基、「庚申」2基と、数が少ないながらも、同種類の石碑が多くあります。1800年代には45基で、内訳は「庚申」11基、「馬頭観世音」7基、「百萬遍」6基、「南無阿弥陀仏」4基、「山神」3基、「念仏供養」3基となり、1900年代では「馬頭観世音」19基、「金神」4基、「六角牛大神」1基、「念仏供養」1基、「記念碑」7基で、1800年代と石碑数がほぼ同数にもかかわらず、1900年代では「馬頭観世音」が19基と殆どを占め、1800年代に多かった「庚申」が1900年代では1基のみに減少し、土淵町と同じ傾向が認められます。

【上郷町－58基】

種類が多い石碑は、これまでの調査対象が「庚申」を中心として実施して来たので、全58基中、「庚申」が28基で半数を占め、他の地域ではみないほどの偏りが見られま

す。次に「馬頭観世音」5基、「山神」3基、「青面金剛」3基、「西国順礼塔」3基「金毘羅」2基、「南無阿弥陀仏」2基、「梵字」2基の順となっています。

年代的には1700年代が12基で、内訳が「庚申」4基、「青面金剛」3基、「南無阿弥陀仏」2基、「(梵字)」2基で種類が少なく、1800年代の25基は、内訳が「庚申」(12基)、「山神」(3基)、「西国順禮」(3基)、「馬頭観世音」(2基)、「金毘羅」(2基)。1900年代(14基)は、「庚申」(7基)、「馬頭観世音」(3基)となっており、1700年代と比較して、石碑の種類が増えている様子が窺われます。市内の他の地域においては、1900年代の石碑として「馬頭観世音」が最も多い傾向にありますが、全石碑の半分が「庚申」となっている上郷町では、1900年代に入っても「庚申」が最も多く、庚申信仰が最後まで残った地域であると考えられます。

【宮守町－1021基】

宮守町は旧達曾部村、旧宮守村、旧鱒沢村がひとつとして数えられたため最も多い数値となっていますが、旧村単位で単純に割った数値は340基程となるため、市内で突出して石碑が多い地域とは言えません。種類が多い石碑は「馬頭観世音」が128基と一番多く、次に「庚申」120基、「湯殿山」61基、「月山」32基、「鳥海山」26基、「羽黒山」25基などの順となっており、出羽三山の山岳信仰が盛んだったことが窺われます。地域の特徴として、他の地域にみられない「卯子酉」13基、「八将神」12基、「馬力神」9基、「地神」、5基、「龍神」4基、「根精神」11基、「金精神」8基があり、下宮守の下郷には、一カ所に「根精神」が集中的に存在しています。また、「地藏」も21基と比較的多く、その中には年代不明ですが六地藏が2カ所に存在しています。

年代的には1700年代が74基で、内訳が「庚申」22基、「南無阿弥陀仏」19基、「念仏供養」12基、「青面金剛」3基となっており、「庚申」と「南無阿弥陀仏」が約半数を占めます。1800年代には、457基と数が多くなり、「馬頭観世音」65基、「庚申」63基、「金毘羅」39基、「湯殿山」33基、「山神」32基、「念仏供養塔」31基、「南無阿弥陀仏」21基、「西国三十三所」16基、「三界萬霊」10基、「卯子酉」10基、「八将神」9基となっています。1900年代では210基で、「馬頭観世音」32基、「月山」23基、「湯殿山」20基、「鳥海山」17基、「羽黒山」15基、「山神」13基、「庚申」12基で、出羽三山に関する石碑が多くなります。また、1800年代と1900年代の「馬頭観世音」と「庚申」割合では、他の地域と同様に「馬頭観世音」が増加し「庚申」は減少しています。

【その他の石碑－道標】

道標は石碑として区分されることから、その他の石碑として整理します。現在確認されている道標は、宮守町9基、土淵町9基、附馬牛町2基、松崎町2基、青笹町2基、上郷町1基となっています。道標全25基の内、15基は年代不明ですが、残りの10基

の年代を見てみると、1700年代1基、1800年代が8基、1900年代は1基となり、江戸時代中期～後期にかけて多くの道標を建てたことがわかります。

また、道標が確認された地域は宮守町9基、土淵町9基と集中しており、行き先の表記は「遠野」「大槌」「早池峰」などが多くなっています。

土淵町の道標には、「右ハおふつち 左ハはやちね」2基、天保3年(1832)、「右 おゝつち道 同行 左おふくに道 講中」と「右は おほつち道 左は □□□道」天保6年(1835)と、同じ年に2基ずつ道標が作られており、一緒に製作され、設置した事が考えられます。また、宮守町には「右ハ達曾部ヲ経テ盛岡 左ハ土澤ヲ経テ花巻」「右ハもりおか路 左ハはなまき路」と書かれており、遠く離れた行先を示すものもあります。



写真2-95 火渡の石碑群

エ オシラサマ

オシラサマは東北地方を中心に信仰される民俗神です。オクナイサマ、オコナイサマ、クワノキジンジョ(桑の木の人形)、オッシャサマ、ゴヒ、オシラボトケと呼んでいる家もあります。現在、旧遠野市には63軒の家に169体のオシラサマがあり、その多くは2体1組で祀られています。複数体所有している理由としては、分家するごとに2体ずつ増やしていく場合、別家に持たせたものが本家に戻ってきた場合、没落した家より引きついでいる場合などがあります。

長さ約30cm程のご神体には、頭を布で包んだ包頭型と頭を布から出した貫頭型があり、貫頭型の頭部には男と女、馬と娘などが彫刻されています。中には墨で顔を描いたもの、何も書かれていない棒状のものもあります。材質は桑の木が多く、材質がよくわからない場合でも桑の木であると伝えている場合が多く見受けられます。中には栗、杉、竹、石製のご神体もあります。

オシラサマの中には年号や修験者、製作した仏師の名前が見られるものがあり、修験者や巫女などの宗教者が関与していたと考えられます。遠野市内に現存するオシラサマの中で最も古いものは文禄3年(1594)の銘があり、次いで慶長14年(1609)、慶安2年(1649)、寛文10年(1671)、明和2年(1765)、文化2年(1765)記銘のものがあります。

オシラサマは養蚕の神、家の神、目の神として信仰している家が多く、他には、崇りを為す神、火の神、子供が好きな神(子供と遊ぶ神)、移動する神(譲り受けがある神)、託宣をする神(お知らせの神)などとして信仰されています。養蚕の神として祀る家は25軒あります。しかし、かつて養蚕をしていたという家は少なく、かつて養蚕を行っていた家でも現在では行っていません。このような状況から養蚕の神として祀っているオシラサマは、養蚕の由来を伝える馬娘婚姻譚の伝播と関係があると思われます。家の神としてオシラサマを祀っている家は、昭和54年の調査で3軒だったものが、平成12年の調査では20軒に増加しました。生活環境の変化に応じて、養蚕の神や目の神として祀っていたものが、家全体の繁栄を祈る神としての信仰へと変化したものと考えられます。目の神として祀っている家は15軒あります。目の病気をオシラサマの障りと判断するイタコが関わっていると思われます。

祭日は、小正月1月16日の家が全体の6割以上を占めています。普段人目に触れない場所に置かれている場合が多く、祭日の朝に祭壇を設けて供物を供え祀ります。「オシラ遊び」などと呼ばれ、毎年この日に「キモノ」「オセンダク」と言われる新しい布1枚をご神体にかぶせて拝みます。オシロイで化粧をする家もあり、子供がいる家では背負わせたり、抱かせたりします。夜になると、その日のうちに元の場所へ納められます。



写真2-96 オシラサマ

オ 供養絵額

供養絵額は、亡くなった人を供養することを目的として、家族、複数の友人達が寺院に納めた板絵です。岩手県中央部に見られる習俗で、江戸時代末期から明治時代にかけて製作されたものです。遠野市内には147枚の供養絵額が確認されており、県内で確認されている386枚の内の半数近くを占め、他の地域より濃密に分布が認められます。

横長の扁額で、板に直接、またはその上に和紙を張ったものに、基本的には故人を偲んだ絵が描かれます。他に、血縁関係にあると考えられる複数の人物が描かれている場合もあります。故人は、座敷などの室内で生活感を感じさせる姿として彩色豊かに描か

れ、戒名が床の間の掛け軸や、画面の端に記されています。また、戒名の他に、没年月日、俗名、故人の履歴などが記される場合もあります。

供養絵額が確認されている場所は、寺院15カ寺、個人1カ所となっており、地域的には、附馬牛町と松崎町を除いたすべての地域で確認されます。

時代としては、奉納年代が記載されたもので最も古いものが、柳玄寺蔵－弘化2年(1845)、最も新しいものは喜清院蔵－大正6年(1917)で、享年のみが記載されたもので最も古いものが、西来院蔵－嘉永2年(1849)、最も新しいものは喜清院蔵－大正元年(1912)となっています。時代別の内訳としては、江戸時代のものが4枚、明治時代のものが48枚、大正時代のものが4枚で、明治時代のものが多く残されています。

故人の来世での幸せなどを祈願し、寺院に奉納された供養絵額は、故人の遺影として肖像画に変化し、遺影写真となります。近年まで変化しながらも寺院に奉納する慣習として受け継がれていましたが、現在は家に掲げられるようになり、奉納の慣習はなくなっています。残された供養絵額は、遠野の人々の死生観と、家族の亡くなった故人への思いを伝える文化と言えます。

(5) 民俗芸能

民俗芸能は、民間芸能などとも呼ばれ、神を祀り五穀豊穡や疾病の退散などを願う庶民の祈りの表現として生まれ、それぞれの環境の中で発展し伝承されてきました。柳田国男が著した『遠野物語』の序文では「天神の山には祭りありて獅子踊あり。茲にのみは軽く塵たち、紅き物聊かひらめきて一村の緑に映じたり」と紹介されています。以下に概要を示し、種別毎に項目を設けて整理しました。

遠野には、民俗芸能の保存会が67団体あり、多種多様な民俗芸能が今日まで継承されています。その内訳は、しし踊り15団体、神楽20団体、太神楽5団体、南部ばやし8団体、さんさ踊り5団体、田植踊り5団体、その他、暮坪虎舞、鷹鳥屋甚句踊り、外山百姓踊り、中斉百姓踊り、遠野まぬけ節などとなっています。種類ごとの割合が、神楽、しし踊り、田植え踊りの順で、上位を占めている状況は岩手県全体と共通した傾向を示していますが、遠野町では南部ばやしが多く、特徴的な傾向といえます。

遠野の民俗芸能は、遠野発祥のものよりも他地域より伝えられたものの方が多くあります。口伝を含め、芸能が伝わった地域をみると、県内では花巻市東和町・大迫町、紫波郡紫波町、宮古市、奥州市江刺区、一関市、県外は、青森県、宮城県、静岡県、三重県、徳島県、京都府などとなっており、近隣や信仰と関係が深い遠方から伝えられたことが窺われます。また、伝わった地域と比較すると、他地域の元の踊りそのままでなく、遠野独自の要素が加えられ今に伝えられており、他の地域の文化から遠野独自の文化へと変化し根付いていった代表的な例でもあります。

地域ごとの状況では、宮守町20団体、小友町10団体、上郷町9団体、遠野町7団体、附馬牛町5団体、綾織町5団体、土淵町5団体、松崎町4団体、青笹町2団体とな

っています。城下町として発展してきた遠野町では、南部ばやしが多く、宮守町には神楽が多い若干の傾向はありますが、神楽としし踊りは遠野町を除いた各町に保存会があり、市内全域に複数の民俗芸能が受け継がれているといえます。

民俗芸能の保存会 67 団体の内、文化財指定を受けているものは 12 団体で、23 団体が遠野遺産に認定され、市民が積極的に保存伝承活動に取り組んでいます。その他未指定の民俗芸能団体 34 団体も、地域の絆を深め地域づくりにも大きな役割を果たし、毎年開催される地域の祭りやイベント等に出演しています。

遠野の民俗芸能の始まりは、江戸時代から明治時代で、大正時代から昭和初期にかけて最も盛んな時期を迎えました。しかし、第2次世界大戦の混乱や昭和30年代の高度経済成長などが影響し、衰退傾向となりました。昭和40年代後半、遠野市全体の民俗芸能イベント「遠野まつり」の開催を契機として保存会が結成され、今日まで継承されています。保存会では、後継者不足が課題となっていますが、地域ぐるみで保存伝承活動に取り組むと共に、保存会同士の交流、連携を深めるため、神楽団体保存推進協議会、遠野郷しし踊り保存会連絡協議会、遠野市民俗芸能協議会を組織し、共演会などを開催して保存伝承活動の活性化に努めており、遠野を象徴する文化のひとつとなっています。

ア しし踊り

しし踊りには主に宮城県から岩手県南部にかけて分布する「太鼓系しし踊り」と、稗貫・上閉伊郡以北の県中部地方に分布する「幕踊り系しし踊り」があります。遠野のしし踊りは、「幕踊り系しし踊り」が主体(14 団体)で、頭にドロの木を削ったたてがみを付けて踊ることからカンナガラジシとも呼ばれています。由来については、慶長2年(1597)に東山五山が小友町長野に伝えた説、寛政3年(1791)に新田市郎右エ門らが村々に伝えた説、宝暦3年(1763)の『遠野古事記』にかかれていた「覚助という人物が熊野詣の際に京都で見聞き習い伝えた」など、諸説があります。また、市内唯一の「太鼓踊り系しし踊り」である宮守町の行山流湧水鹿踊は、奥州市江刺区梁川の行山流久田鹿踊りが伝わったものといわれています。

地域別でみると、附馬牛町、小友町、上郷町、宮守町が各3 団体、松崎町、綾織町、土淵町、青笹町が各1 団体となっているものの、1 団体となっている地域は、近い地域同士で統合したなどの経緯によるもので、各地域で踊られていた民俗芸能です。



写真 2-97 しし踊り

イ 神楽

岩手県内では修験山伏が組織した「山伏神楽」が多く伝承されており、その中心が花巻市大迫町内川目の岳地区と大償地区にそれぞれ伝わる神楽を総称した早池峰神楽です。遠野市にはこの早池峰系の神楽として、湯屋神楽、鷹鳥屋神楽、白山神楽、白石神楽、塚沢早池峰神楽、平倉神楽、外山神楽、湧水神楽、柏木平神楽などの神楽のほか、神人系(しんとけい)といわれる附馬牛町の大出早池峰神楽系の小倉神楽、石上神楽、鱒沢神楽などがあります。また、他にも遠野山伏派と呼ばれる八幡系神楽として、八幡神楽、飯豊神楽、六角牛神楽、上宮守神楽、似田貝神楽、鹿込神楽、迷岡神楽、野崎神楽の山伏神楽があります。

神人系神楽と山伏系神楽とは、踊りの順序や彩り物の名称が異なっているほか、神人系神楽が三拍子ないし五拍子を主とした優雅で女性的な踊りと言われるのに対して、山伏系神楽は勇壮で男性的な踊りといわれ、踊りの趣にも違いがあるとされています。また、八幡系神楽は、式舞に恵比寿舞が入るなど宮古市を中心とする黒森神楽及び岩手山周辺の山伏神楽に近い構成を持っている遠野郷独特の神楽とされています。



写真 2-98 神楽

ウ 太神楽

遠野市の太神楽は、江戸太神楽の系統に属する太神楽で、獅子舞は神の使いとされ、雄獅子と雌獅子とがあり、舞い方もその性を現しているといわれています。遠野太神楽と山口太神楽はともに、先頭にオカメが立ち、その後に舞子、獅子と続きます。遠野太神楽は、笛は大勢の方が良いとされ、囃子の特色になっています。山口太神楽は、囃子方に唯一三味線があり、拍子が非常に賑やかで、獅子は雄獅子となっています。上宮守大神楽は、人手不足で囃子方の確保にも苦労していた時期もありましたが、現在は若者が加わり、囃子方の生演奏が復活しました。拍子は軽快なリズムとなっています。米田大神楽は下宮守の下栃大神楽(中断中)から伝えられ、神社の境内やお旅所などで踊り、門かけを行っています。獅子は雌獅子で大人しく、頭をかじることもないといわれます。舘大神楽には、他と異なる「おかめ踊り」という演目があり、女の子達の踊りで20人

ほどが舞います。獅子は雄獅子で踊りが激しいとされています。いずれの団体も必ず獅子頭があり、古くから伝えられているものもあります。



写真2-99 太神楽

エ 南部ばやし

南部ばやしは、華やかで煌びやかな衣装を身にまとい、ゆっくりとしたテンポの囃子で優美に舞う町方踊りです。新町南部ばやし、小友南部ばやし、綾織南部ばやし、上早瀬南部ばやしがあるほか、上組町南部ばやし、穀町南部ばやし、仲町南部ばやし、一日市南部ばやしの4団体を総称して「遠野南部ばやし」と呼んでいます。始まりは、寛文元年(1661)現在の場所に八幡宮を遷宮した際、例祭に奉納するため、京都から来ていた遊芸師に命じて京都の「祇園ばやし」を模して遠野地方の特色を取り入れて案出した遠野独特のものといわれています。



写真2-100 南部ばやし

オ さんさ踊り

岩手を代表する盆踊り、さんさ踊りには、山口さんさ踊り、平野原さんさ踊り、森ノ下さんさ踊り、上宮守参差踊り、下郷さんさ踊りの5団体があります。山口さんさ踊りは、大正時代(1912~)初め頃、小国村(現、宮古市小国)大久保から婿入りした方の兄嫁から伝えられたといわれています。平野原さんさ踊りは、昭和16年(1941)平野原の青年達が、昭和8年(1933)に踊られた赤羽根集落の青年有志を師匠に、若者達を中心とな

って練習を重ね、遠野内外に出向いて踊り、次第に平野原さんさ踊りと呼ばれるようになったといわれています。森ノ下さんさ踊りは、大正9年～昭和2年(1920～1927)まで森ノ下に居住した紫波町長岡出身の方が、村の若者にさんさ踊りの手ほどきをしたことに始まるといわれています。定かではありませんが「さんさ踊りは悪鬼を退治した喜びの踊り」といわれ、森ノ下さんさ踊りの場合は「豊年を喜ぶ踊り」とする話もあります。上宮守参差踊りは、宮守町達曾部の大川目参差踊り(中断中)を師として、そこから婿に来た方から伝わり、昭和10年(1935)頃初演。昭和60年(1985)頃より盛岡さんさの手踊りを現代風にアレンジし、今の踊りになったといわれています。下郷さんさ踊りは、旧和賀郡笹間村横志田(現、花巻市横志田)に伝承されていた踊りが東和町谷内(現、花巻市東和町)に伝わり、そこから上宮守に嫁に来た方から昭和24年(1949)に下郷に伝えられたのが始まりといわれています。それぞれの由来や伝播に違いが見られ、踊られている地域も限られていますが、遠野の民俗芸能として欠くことができない存在となっています。



写真2-101 さんさ踊り

カ 田植え踊り

田植え踊りは豊作を願い踊られるもので、遠野郷南部田植踊、横田田植踊、平野原田植踊、鱒沢田植踊の4団体があります。遠野郷南部田植踊は、寛永(1624～)の初め頃、遠野南部家下郷代官が綾織村内に水が不足し水田が少ないことに気づき、水田を開いたが水田耕作の技術が未熟だったため、楽しみながら農事を行えるよう念願して田植踊りを導入したことに始まるといわれています。横田田植踊は、伝えられた時期は不明ですが、明治後期と大正初期に小正月に遠野町に門付けに出たと伝えられています。その他、定かではありませんが、阿曾沼氏が横田城を築城した際に、その落成のお祝いに一年の稲作りを所作にして踊ったのを始まりとする伝承もあります。平野原田植踊は、仙台黒川(宮城県黒川郡大和町・旧舞野村)より、弘化年間(1844～1848)の頃、遠野に来た兄弟によって伝えられたといわれています。この田植え踊りは、大正5年(1916)と昭和9年(1934)に踊った際、両年とも凶作に見舞われ「餓死田植え」という不名誉な代名詞が付

けられたため、昭和9年(1934)を最後に、笠納めをして暫くの間中断していました。それにより復活活動が遅れる原因の一つとなったといわれています。鱒沢田植踊は、伝承経路は不明で、明治35、6年(1902~1903)頃に踊られ始めたといわれます。何度かの中断を繰り返し再復活した際、古老の指導と土淵町の山口田植踊(中断中)の補足指導を受けたといわれています。



写真2-102 遠野郷南部田植え踊り

その他、遠野まぬけ節は、元禄年間(1688~1704)遠野城下で盆踊りとして広く踊られたといわれ、大正期には途絶えましたが、遠野出身の民謡研究家武田忠一郎氏が採譜したことにより復活し、昭和43年(1968)に現在の踊りが振付けられました。かつての踊りは四国徳島の阿波踊りに似たものであったといわれ、さまざまな変装をした人達が鳴り物などを手に街に繰り出し、身振り手振りも面白く踊り、夜が更けるまで街を練り歩いたといわれています。

暮坪虎舞は、上郷村暮坪の方が日清戦争に出征した折、戦地のある一集落で踊られていた虎舞を習い覚え、復員後、暮坪集落で伝承し、その後改良を加え、現在の形になったといわれています。「ササラスリ」と呼ばれる男が、虎をおびき寄せながら垂直のはしごに昇り、逆さまになりながら足で体を支え、そのまま手足を滑らせてはしごを降りる、この場面が一番の見せ場となっています。

中斎百姓踊りは、昭和10年(1935)代、和賀郡東和町田瀬(現、花巻市東和町田瀬)の方が、達曽部白石地区の金鉾掘削のため中斉に住み込んでいた際、作業員の慰労と地域の演芸を披露することを目的に田瀬に伝わる百姓踊りを伝授したことに始まるといわれます。かつては豊作祈願のため、正月や地域の演芸会を主体に踊られていました。

外山百姓踊りは、昭和52年(1977)頃、手仕事から機械作業へと移り変わる時期に、昔の仕事をなくさないようにと集落の有志達により始まったといわれます。振付や小道具は全て自分達で独自に考え行っていて、太鼓にあわせ軽快で、ユーモラスに表現された踊りです。

鷹鳥屋甚句踊りは、大正4年(1915)頃、江刺より踊りの師匠を招き、小黒沢集落の若者達が、江刺甚句踊りの指導を受け練習し、その後毎年稽古を積み重ね習得したのが始まりといわれています。祝い踊りとして伝承されており、囃子方には三味線、太鼓、手平鉦となっています。

(6) 遠野の先人と『遠野物語』、遠野南部氏に関する文化的資産

遠野の歴史や民俗に関する調査研究を行い、その功績を示す多くの資料を残した先人と『遠野物語』に関わる主要な資料群の概要は以下の通りです。



写真2-103 佐々木喜善

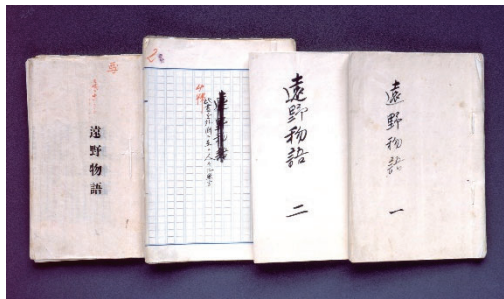


写真2-104 『遠野物語』原稿



写真2-105 伊能嘉矩

ア 佐々木家寄託資料

『遠野物語』の話者で、昔話研究の先駆者として知られる佐々木喜善きぜんに関する資料群です。資料の内訳は、日記、書簡、原稿、調査カード、書籍などがあり、合計5,410点の資料を遠野市立博物館で受託しています。

佐々木喜善は、明治19年(1886)現在の遠野市土淵町に生まれ、早稲田大学在学中に柳田國男と出会い、遠野に伝わる伝説や世間話を語り『遠野物語』が出版されました。その後も土淵村長などの公職をつとめながら創作と民俗資料の収集に没頭し、『江刺郡昔話』、『聴耳草紙』などを著しました。昭和8年(1933)48歳の時に仙台で他界。日本における昔話研究の先駆的功績が認められ、折口信夫や金田一京助からは「日本のグリム」と評されました。

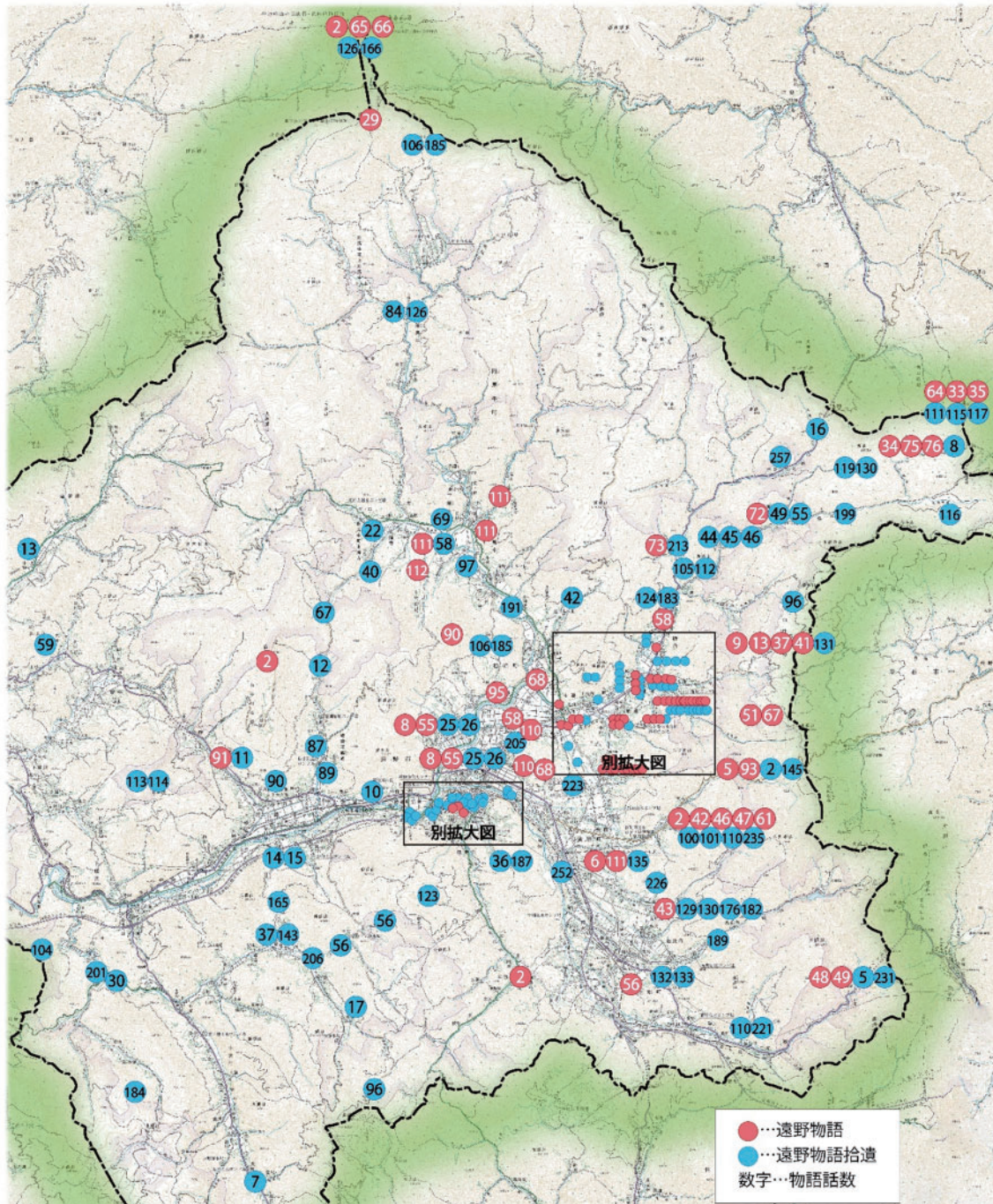


図 2-3 市内全域に広がる『遠野物語』の舞台

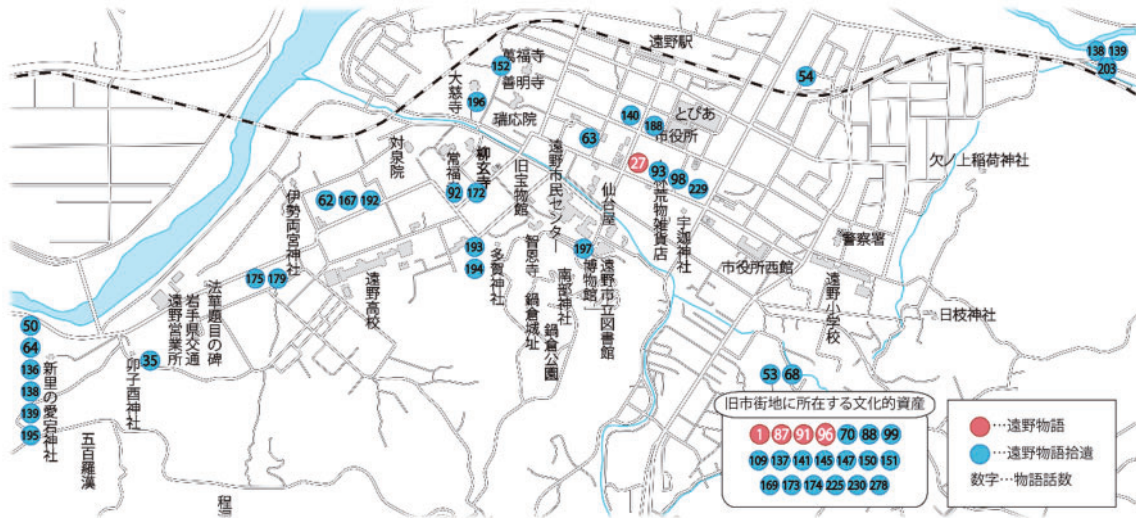


図2-4 『遠野物語』の舞台 市街地

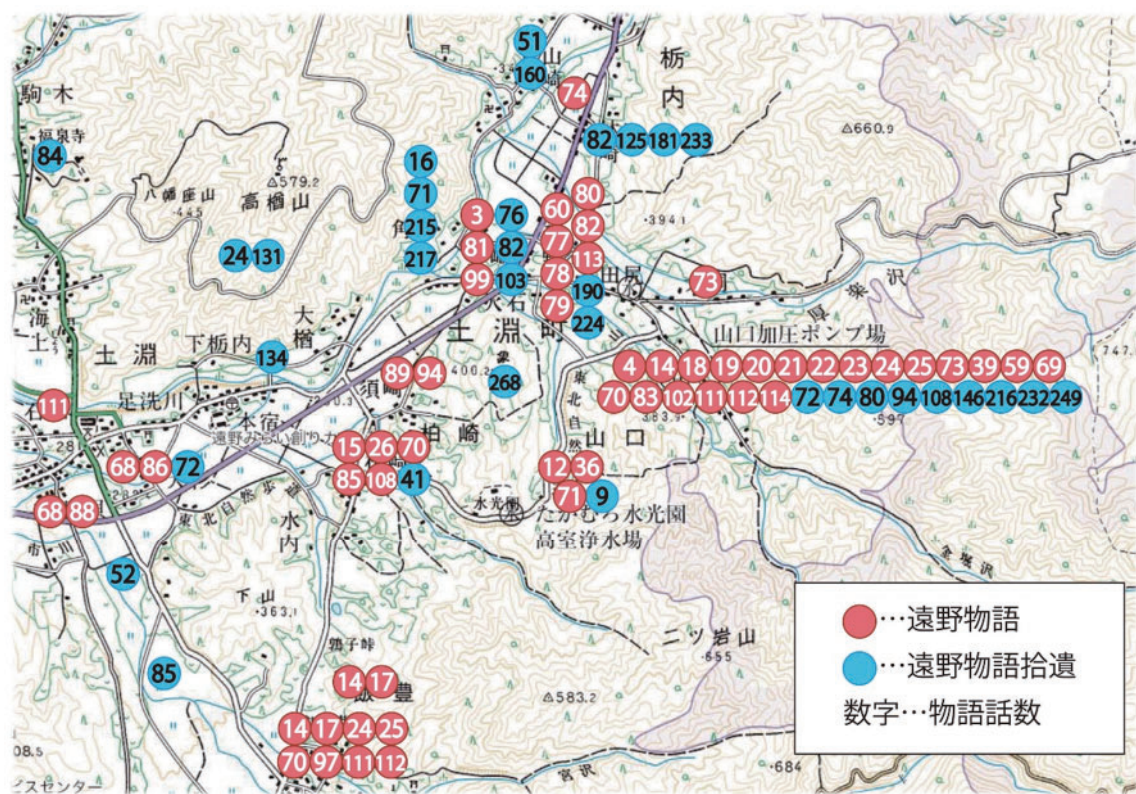


図2-5 『遠野物語』の主要な舞台 土淵

イ 伊能家寄託資料

人類学者、民族学者で、特に台湾原住民に関する先駆的研究で知られる伊能嘉矩^{かのり}に関する資料群です。資料の内訳は、踏査日記、スケッチ、書簡、原稿、書籍などがあり、合計 2,232 点の資料を遠野市立博物館に寄託されています。

伊能嘉矩（1867～1925）は、現在の遠野市東館町生まれで、東京帝国大学の坪井正五郎から人類学を学びました。その後、明治 28 年（1895）台湾に渡り、10 年間台湾原住民の調査・研究を行いました。遠野に帰ってからは、台湾研究を進めるかたわら、柳田國男や佐々木喜善、ネフスキーなどと交流し、『遠野物語』の成立にも影響を与えました。大著『台湾文化志』は、現在も国際的に高く評価されています。

ウ 鈴木家資料

民俗学者で、遠野の郷土研究に尽力した鈴木重男^{しげお}（1881～1939）に関する資料群です。書簡、原稿、歴史資料、書籍など 2,793 点の資料の寄贈（一部資料は受託）を受け、遠野市立博物館で収蔵しています。

鈴木重男は、吉十郎の長男として明治 14 年（1881）5 月 15 日、現在の遠野市遠野町に生まれました。遠野の郷土史の研究にあたり、父吉十郎から受け継いだ貴重な郷土の資料を保存収蔵し、自らも資料を多数収集し、遠野郷土館を開設して一般に公開しました。また伊能嘉矩、佐々木喜善らと相計り、郷土研究会を創設し、郷土史ならびに土俗の調査研究に尽力しました。著書に、『土淵今昔物語』、『遠野の伝説』、『鍋城』などがあります。

エ 柳田國男と『遠野物語』資料

『遠野物語』の成立に関わる、佐々木喜善の日記、柳田國男と佐々木喜善との書簡および『遠野物語』原稿（初稿本、再稿本、校正見本刷り）を博物館で保管しています。市内各地には『遠野物語』の舞台となった場所が存在しています。

『遠野物語』は日本民俗学の誕生を告げる記念碑的存在で、優れた文学作品としても高く評価されています。明治 41 年（1908）11 月 4 日、柳田國男は、作家・水野葉舟の紹介で遠野出身の大学生・佐々木喜善と出会い、遠野に伝わる伝承を聞き、それを書きとめていきました。柳田國男の聞き書きは、明治 42 年（1909）5 月まで行われたと推定されています。初稿本、再稿本、校正刷りの順に推敲が重ねられ、明治 43 年（1910）6 月 14 日に『遠野物語』として出版されました。

オ 南部氏と城下町遠野に関する資料

遠野南部氏と城下町・遠野の歴史は、遠野南部氏初代弥六郎直義が、盛岡藩主・南部利直の命により、遠野への所替えを命じられた寛永 4 年（1627）に始まります。所替え直後から城下町の整備に着手し、現在の遠野町の輪郭は、2 代義長で完成したと伝えら

れます。直義をはじめ、歴代は遠野を治める一方で、盛岡藩の重職も勤め、藩運営にも役割を果たしてきました。

遠野城下町資料館では、盛岡南部家重臣としての、遠野南部氏の格式を物語る品々を、家紋入の武具や行列道具類を中心に 93 件の資料を展示・保管しています。

また、平成 27 年から新遠野市史編纂事業が開始され、遠野南部家所蔵資料である古記録や古文書を解読し、資料編として第 1 巻が出版されました。

注：遠野南部家(現当主、南部光徹)には国重文指定の中世文書等 247 点を含む約 2,600 点にも及ぶ多くの古文書、古記録のほか、武具など歴史資料が保存されており、その解明が期待されています。



写真 2-106 遠野南部氏関連資料展示所遠野城下町資料館

第4節 遠野遺産

遠野遺産は、遠野市独自の文化財保護制度です。以下にその概要を示し、種別毎に項目を設けて整理しました。遠野遺産は、「有形文化遺産(建造物や旧跡など)」「無形文化遺産(民俗芸能や伝統行事など)」「自然遺産(植物や地形など)」「複合遺産(有形、無形、自然が複合するもの)」の4つに区分されます。一部、指定文化財を含みますが、多くは未指定文化財で、遠野市独自の文化資産が含まれており、市民の意向が反映された文化的資産です。平成30年度を含めた認定件数は、有形78件、無形30件、自然14件、複合34件、合計157件となっており、毎年着実にその数を増やしています。

注：付編一覧表参照

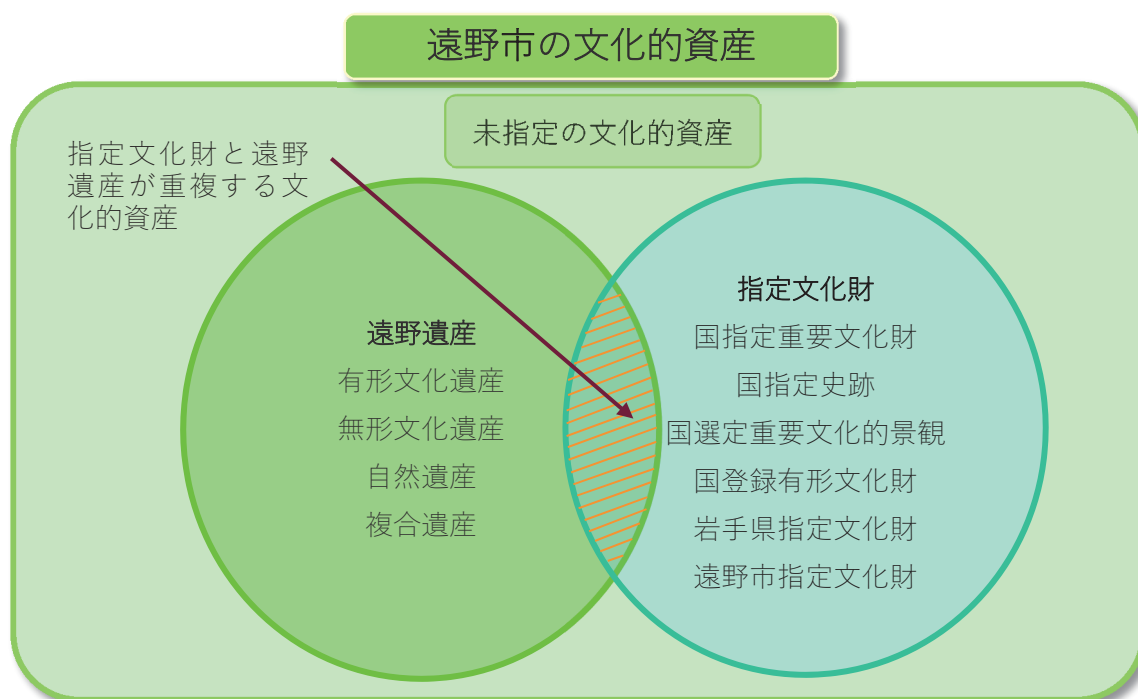


図2-6 遠野市の文化的資産

ア 有形文化遺産

有形文化遺産は建造物、旧跡、記念碑、その他の四つの区分があり、遠野遺産の半数以上を占めています。内訳では、建造物の神社等が52件と最も多く、次に石碑等の記念碑が15件、お墓や城跡などの旧跡11件の順となっています。認定された神社は地域の中心となった歴史ある神社のほかに、伝説を有する神社や社が多く、今も変わらぬ信仰に対する篤い思いと同時に、未来に伝えようとする遠野の風土が色濃く反映されたものと考えられます。このなかには、国選定重要文化的景観の重要な構成要素となっている「山口の水車小屋」「山口の薬師堂」「ダンノハナと佐々木喜善墓地」「荒川駒形神社」や、県指定有形文化財の遠野七観音「山谷観音堂」「鞍迫観音堂」、市指定有形文化財「平倉観音堂」、市指定史跡文化財の「辻田峠一里塚」も含まれています。

イ 無形文化遺産

無形文化遺産は、芸能と習慣の二つに区分されます。全30件の内、25件がしし踊りや神楽などの民俗芸能で、残り5つが風俗習慣となっています。民俗芸能は、祭りのために晴れの衣装を購入し、祭りを祝った遠野の人々が、神への祈りや感謝や人々の最も楽しみな娯楽のひとつとして長い間伝承されてきたことを裏付けているものと思われます。その他の習慣は祖先を供養するものです。国選択記録・県指定無形民俗文化財の「青笹しし踊り」、県指定無形民俗文化財「長野獅子踊り」「早池峰しし踊り」「板澤しし踊り」、市指定無形民俗文化財「氷口御祝」「小友町裸参り」「遠野南部流鎗馬」「行山流湧水鹿踊」「鱒沢神楽」が含まれています。



写真2-107 認定第45号



写真2-108 認定第31号



写真2-109 認定第89号



写真2-110 認定第55号



写真2-111 認定第32号



写真2-112 第認定123号

【上記写真－未指定の文化的資産・遠野遺産抜粋】

認定第045号－乳神様(有形・未指定)

乳神様は、大きな岩の上に立つウッコ(イチイ)の木に抱かれるように祀られています。子宝に恵まれなかった女性や、お乳が出なかった女性が祈願しました。

認定第031号－不動岩と巖龍神社(複合・未指定)

不動明王を祀った神社の背後に、龍の姿に見える跡がのこる岩壁がそびえた景勝地です。

認定第089号－近江弥右衛門の墓(有形・未指定)

金山開発により財を成し、その財を地域の水田開発に投じた近江商人のお墓です。

認定第055号－能伝坊神社(有形・未指定)

金山開発の伝説があり、一生に一度だけ願いをかなえると言われている小さな社です。

認定第032号－寺沢川溪谷(自然・未指定)

四十八滝と呼ばれる滝が連続した溪谷で、地元の人達により散策路が整備されています。

認定第123号—上鱒沢の猿ヶ石川沿いの桜並木(自然・未指定)

昭和23年のアイオン台風被害により築かれた堤防上に、完成を記念して地元の人達が植樹した桜並木です。災害の記憶を伝えながら、地元の人達によって管理されています。

ウ 自然遺産

自然遺産は、植物、地形、地質鉱物の三つに区分され、その内、半分以上の9件がご神木や伝説を有するもの、地域のシンボルとなっているものとなっています。「大日山のさくらと赤松」「千本カツラ」「田屋の大杉」「長泉寺かやの木」「喜清院のシダレ桜」の5件は市指定天然記念物に指定されています。他には滝や溪谷などの地形が4件、龍伝説が残る「舌出し岩」が唯一の地質鉱物となっています。

エ 複合遺産

複合遺産は有形、無形、自然が複合されたものです。神社と御神木、建造物と植物の複合遺産が最も多くを占めています。内容としては他の遺産大きな変わりがなく、周辺を含めた保存に対する意識の表れと受け取れます。県指定無形民俗文化財と未指定文化財が組み合わされた「駒木鹿子踊りと角助の墓」、市指定天然記念物と未指定文化財が組み合わされた「小黒沢の伊豆権現とその周辺(イヌザクラ)」「横田城跡及び彼岸桜と山桜」「天王様とモミの木」「鱒沢四社・高館八幡神社とエドヒガンザクラ」、市指定史跡と未指定文化財が組み合わされた「下同心丁枡形と法華題目の碑」が含まれています。

地域別の認定件数は、遠野町19件、綾織町21件、小友町31件、松崎町19件、附馬牛町15件、土淵町27件、青笹町16件、上郷町17件、宮守町29件となっており、市内全域におよんでいます。

「みんなで築くふるさと遠野推進事業」を活用した事業の概要

- 1 社、鳥居、参道の修理49件
 - 2 お祭りイベントの開催42件
 - 3 記念誌作成1件
 - 4 民俗芸能の衣装製作2件
 - 5 環境整備15件
- ※ 石碑等、性質上の理由により保護活動のみ実施している遺産もあります。

「遠野遺産認定制度」の効果
(アンケート調査の主な意見)

- 1 地域の文化財情報が共有された。
- 2 未指定文化財を修理保存できた。
- 3 情報提供や保存活動参加により、他の地域づくりも推進された。
- 4 地域行事等への参加者が増加し、地域が活性化した。
- 5 観光客や地域以外の人を訪れるようになった。

図2-7 保存活用事業を実施した状況と、確認された効果

第5節 遠野市の歴史文化の特徴

前述した調査資料、指定文化財、未指定文化財により導き出される遠野市の歴史文化の特徴を、以下のア～オに集約しました。

ア 自然環境の証となる歴史文化

【遠野三山、天然記念物、滝や溪谷・溪流など】

イ 遠野の根底を成す歴史文化

【旧石器時代～縄文時代～古代の遺跡など】

ウ 信仰・民俗に見る歴史文化

【神社、神仏像、石碑、南部曲り家、馬事文化、民俗芸能、慣習など】

エ 統治の変遷を物語る歴史文化

【阿曾沼氏・遠野南部氏の文化、中世城館、旧蹟など】

オ 『遠野物語』と先人の記録、近現代が融合した歴史文化

【『遠野物語』、伊能嘉矩資料、佐々木喜善資料、街並み土蔵・洋風建築、佐比内鉄鉱山、遠野馬の里など】

この様な歴史文化の特徴は、自然に対する畏敬の念を忘れず、遠野というフィルターを通して様々な文化を受け入れながら後世に伝えられてきた歴史を物語り、今も市民協働のまちづくりとして、理想のふるさととして未来へ伝えようとしています。

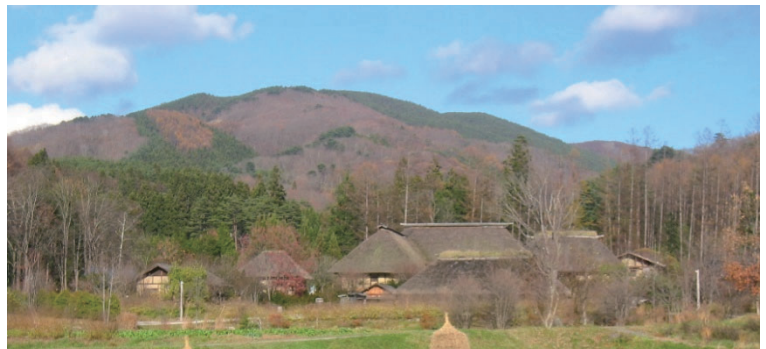


写真 2-113 遠野市の文化的資産(カップパ淵、語り部、しし踊り、大工町、ふるさと村)

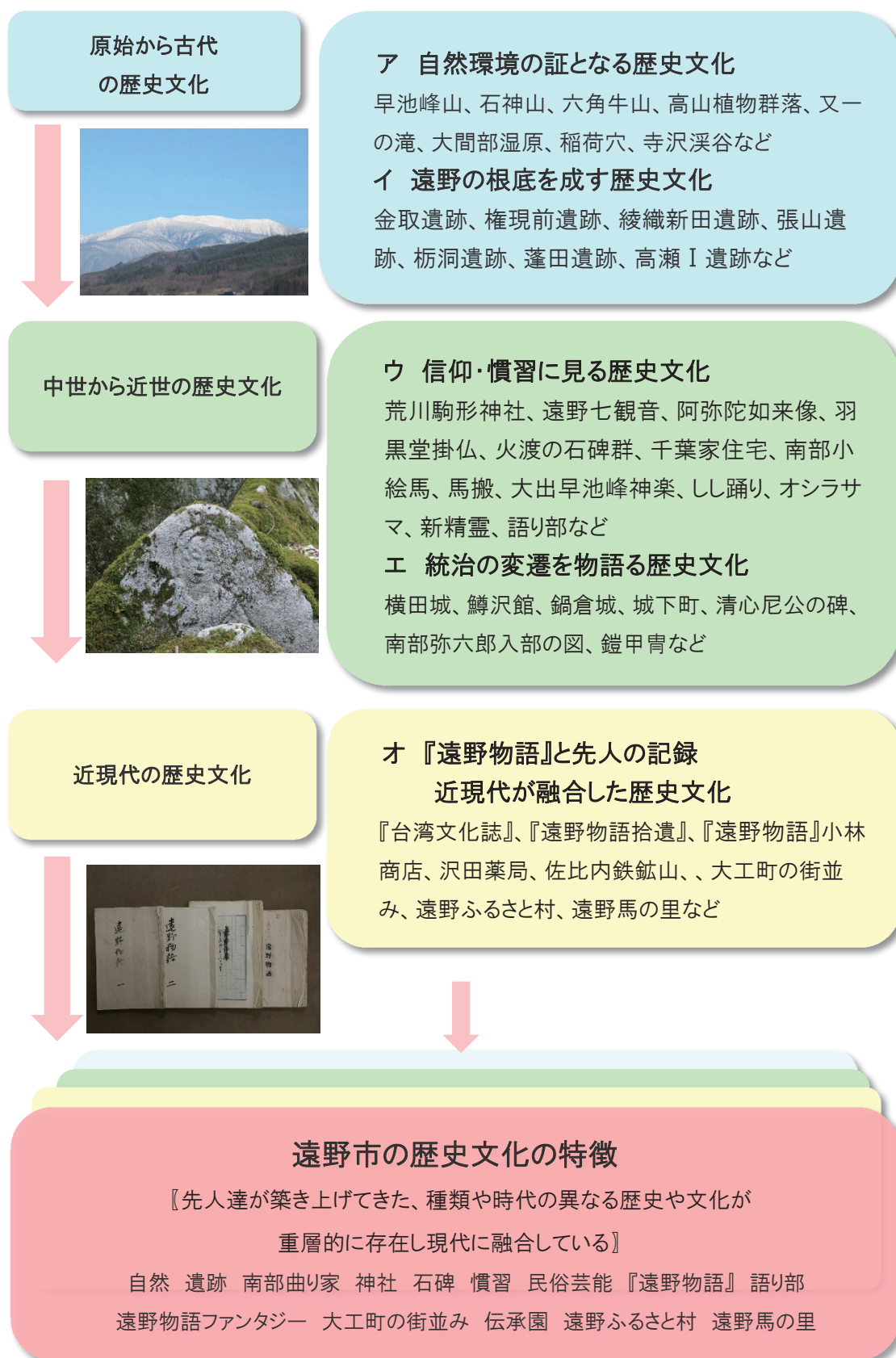


図 2-8 遠野の文化的特徴を形成してきた過程